

# 永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2012年 9月

「よみがえられた救い主」「恵みの力」「キリストにある完全」

# 永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

## 目次

### 今月の聖書勉強

「よみがえられた救い主」

4

### 朝のマナ

「恵みの力」

9

神の驚くべき恵み

### 現代の真理

「キリストにある完全」

41

最後の出来事

### 力を得るための食事

「パイナップル・ジェラート」

52

### お話コーナー

「むくいられる正直」

54

#### 教会

##### 【正丸教会】

〒368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

電話：0494-22-0465

FAX：0494-26-5059

##### 【高知集会所】

〒780-8015 高知県高知市百石町 1-17-2

電話：088-831-9535

##### 【沖繩集会所】

〒905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21

電話：0980-55-8136

#### アクセス

ホームページ：<http://www.4angels.jp>

メール：[support@4angels.jp](mailto:support@4angels.jp)

発行日 2012年8月31日

編集&発行 SDA 改革運動日本ミッション

〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

## 神のみこころを理解する

**神**の戒めのすべてに従おうと努力する者は、反対と嘲笑に会うであろう。彼らは神のうちにあるときのみ立つことができる。彼らは目の前にある試練に耐えるためには、み言葉の中に示されている神のみこころを理解しなければならない。彼らは、神のご品性、統治、御目的について正しい理解を持ち、それに従って行動するときのみ、神をあがめることができる。聖書の真理によって心を堅固にした人たち以外には、だれも最後の大争闘に耐え抜くことはできない。わたしは人に従うより神に従うべきかという鋭い質問が、一人一人に臨むであろう。その決定の時は今日の前に迫っている。われわれの足は、変わることはない神のみ言葉という岩の上に、しっかり立っているだろうか。われわれは、神の戒めとイエスを信じる信仰をとりでとして、堅く立つ用意ができていだろうか。

救い主は十字架におかかりになる前に、弟子たちに、ご自分が殺され、墓からよみがえられることを説明された。そして天使たちがその場において、主のみ言葉を頭と心に深く印象づけた。しかし、弟子たちは、この世においてローマのくびきから解放されることを期待していたので、彼らの望みの中心である主が不名誉な死を受けられなければならないという思いに耐えられなかった。彼らが覚えていなければならなかったみ言葉は、その心から消えさり、試練の時がやって来たときには備えができていなかった。イエスの死は、まるで主がなんの予告もしておられなかったかのように、彼らの望みを徹底的に打ち砕いたのであった。キリストのみ言葉によって弟子たちに将来がはっきり示されていたように、われわれにも将来のことが預言の中にはっきり示されている。恩恵期間の終わりに関係のあるできごとと、悩みの時のために備える働きとが、はっきり示されている。しかし多くの人々は、全然啓示を受けなかったかのように、これらの重要な真理を理解していない。サタンは、彼らに救いに至る知恵を与えるような感化をことごとく奪い去ろうとかがっているので、彼らは悩みの時に備えができていない。(各時代の争闘下巻 359,360)

創造主にして命の与え主なるキリスト

## よみがえられた救い主

「わたしはよみがえりであり、命である」(ヨハネ 11:25)。「命を捨てるのは、それを再び得るためである」と言われたお方は、墓からご自身のうちにもっておられる命へと出てこられた。人生は死んだ。神性は死ななかつた。ご自分の神性のうちに、キリストは死のかせを断ち切る力を持っておられた。このお方はご自分のうちに望む者をよみがえらせる命があると宣言しておられる。

すべて創造された者は、神の意志と力によって生きている。彼らは神の御子の命を受けている者である。どれほど能力や才能があっても、またどれほどその容量が大きくても、彼らはあらゆる命の源から命を満たされているのである。このお方は命の源であり、泉であられる。不死を持っておられ、光と命のうちに住んでおられるこのお方だけが、「わたしには、[わたしの命]を捨てる力があり、またそれを受ける力もある」と言われるのである(ヨハネ 10:18)。

「わたしはよみがえりであり、命である」というキリストの言葉は(ヨハネ 11:25)、ローマの番兵にはっきりと聞こえた。サタン全军がそれらを聞いた。そしてわたしたちが聞くとき、それらを理解するのである。キリストは多くの人々の贖い代としてご自分の命を与えるために来られた。よき羊飼いとて、このお方は羊のためにご自分の命を捨てられた。刑罰を科することによって神の律法を維持するのは、神の義であった。これは律法が維持され、聖であり、正しくかつ善なるものとして宣言されうる唯一の方法であった。それは罪がはなはだしく罪深く現わされ、また神聖な権威の誉れと大能が維持されうる唯一の方法であった。

神の統治の律法は神のひとり子の死によって大いなるものとされるのであった。キリストは世の罪の罪深さを負われた。わたしたちの満たしは、ただ神の御子の受肉と死のうちにのみ見出される。このお方は神性によって支えられていたために、耐えることがおできになった。このお方が持ちこたえることができたのは、不忠実や罪のしみが一つもなかつたからである。キリストはこのように刑罰に正義を負われることによって、人間のために勝利された。このお方は律法を高め、それを誉れあるものとしながら、人のために永遠の命を獲得されたのであった。

キリストは不死を与える権利を授けられた。このお方が人性において捨てた命をこのお方はふたたび取り上げて人類にお与えになる。「わたしがきたのは、……命を得させ、豊かに得させるためである」と言われる(ヨハネ 10:10)。「わたしの

肉を食べ、わたしの血を飲む者には、永遠の命があり、わたしはその人を終りの日によみがえらせるであろう」（ヨハネ 6:54）。「わたしが与える水を飲む者は、いつまでも、かわくことがないばかりか、わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠の命に至る水が、わきあがるであろう」（ヨハネ 4:14）。

キリストを信じる信仰を通してキリストと一つであるすべての人は、永遠の命へ至る命となる経験を得る。「生ける父がわたしをつかわされ、また、わたしが父によって生きているように、わたしを食べる者もわたしによって生きるであろう」（ヨハネ 6:57）。「わたしにおゝる人は、「わたしもまたその人におゝる」（ヨハネ 6:56）。「わたしはその人を終りの日によみがえらせるであろう」（ヨハネ 6:54）。「わたしが生きるので、あなたがたも生きるからである」（ヨハネ 14:19）。

キリストは人類と一つになられた。それは人類が霊と命において、ご自分と一つになるためであった。神のみ言葉への従順のうちにあるこの結合の徳によって、このお方の命がわたしたちの命となる。このお方は悔いている者に「わたしはよみがえりであり、命である」と言われる（ヨハネ 11:25）。死は、キリストによって眠り—沈黙、闇、眠り—だと見なされている。このお方はあたかもそれがほんのひとときのことであるかのように語っておられる。「また、生きていて、わたしを信じる者は、いつまでも死なない」（ヨハネ 11:26）。「わたしの言葉を守る者はいつまでも死を味わうことがないであろう」（ヨハネ 8:52）。「その人はいつまでも死を見ることがないであろう」（ヨハネ 8:51）。そして信じる者にとって、死は小さな問題にすぎない。彼にあつて死は眠りにすぎない。「同様に神はイエスにあつて眠っている人々をも、イエスと一緒に導き出して下さるであろう」（テサロニケ第一 4:14）。

女がよみがえられた救い主の証人として彼らのメッセージを知らせ、またイエスがご自身をもっと数多くの信徒たちにご自身を表わすために準備をしておられる間、別の光景が起こっていた。ローマの番兵は、キリストの誕生の時に勝利の歌をうたった力強い天使たちを見、また今や贖いの愛の歌をうたっている天使たちを聞くことができるようにされていた。見ることを許されたこの素晴らしい光景に、彼らは気絶し、死んだ人ようになった。天の従者が彼らの目から隠されると、彼らは立ち上がり、よろめく足どりのできるだけ速くその門へ向かった。盲人か酔っ払いのようによろめき、顔は死人のように蒼ざめて、彼らは自分たちが目撃したおどろくべき光景について出会った人々に語った。使者たちが急いで彼らより先に祭司長や役人たちのところへ行き、最善を尽くして、起こった異例の事件を述べた。

番兵たちは、まずピラトのところへ向かっていたが、祭司や役人たちが彼らのところへ来るように伝言した。これらの冷徹な兵士たちは、キリストの復活とまた

このお方がご自分と共に連れ出された群衆の復活について証をしているとき、奇妙な様子であった。彼らは祭司長に自分たちが墓のところで見たことを語った。彼らに真実以外のことを考えたり、語ったりする時間はなかった。しかし、役人たちは報告を不快に思った。彼らはキリストの裁判が、過越節の時に行われたことによって、広く知れ渡ったことを知っていた。彼らはその時に起こったおどろくべき事件—超自然的な暗黒、大地震—が影響を及ぼさずにはいなかったことを知っていた。そこで、彼らはただちにいかにして民を欺くことができるかを企てた。兵士たちは偽りの報告をするように買収された。

## 初穂

キリストが、十字架におられて、「すべてが終わった」と叫ばれたときに(ヨハネ 19:30)、大きな地震があり、それによってすべての悪のわざに反対して証を担い、万軍の主を大いなる者とした多くの忠実で忠誠な人々の墓が開かれた。命の与え主が墓から出てきて、「わたしはよみがえりであり、命である」と宣言されると、このお方はこれらの聖徒たちを墓から召集された。生きている間、彼らは真理のために勇敢に証を担った。いま、彼らは自分たちを死人の中からよみがえらせてくださったお方への証人となるのであった。これらの人々は、もはやサタンのとりこではないとキリストは言われる。わたしは彼らを贖った。わたしは彼らをわたしの力の初穂として、わたしのおるところにわたしと共にいるために、二度と死を見ることなく、悲しみを経験することがないように、墓から連れ出したのである。

イエスはその公生涯の間に、死人を命によみがえらせた。このお方はナインのやめめの息子を、ヤイロの娘を、またラザロをよみがえらせた。しかし、これらの人々は不死をまもってはいなかった。彼らはよみがえらされた後も、あいかわらず死の支配下にあった。しかし、キリストの復活の時に墓から出てきた人々は、永遠の命へとよみがえらされた。彼らは死と墓に対するこのお方の勝利の記念としてこのおかたと共に昇天したとりこの群衆であった。

キリストはその復活後、ご自分に従う者たちのほかはだれにもご自身を表わされなかった。しかし、このお方の復活に関する証に不足はない。キリストと共によみがえらされた人々は、「多くの人に現れ」(マタイ 27:53)、キリストが死人の中からよみがえり、わたしたちもこのおかたと共によみがえらされたのだと宣言した。彼らは都の中で、次の聖句の成就について証をした。「あなたの死者は生き、彼らのなきがらは起きる。ちりに伏す者よ、さめて喜びうたえ。あなたの露は光

の露であって、地は死者をはきだすからである（イザヤ 26:19 英語訳）。これらの聖徒たちは、ローマの番兵が流布するように雇われた虚言—弟子たちが夜にきて、このお方を盗んでいったということ—を否定した。この証は沈黙させることができなかった。

キリストは眠っている人々の初穂であられた。命の君が初穂、すなわち揺祭の本体になられるというのは、神の栄光のためであった。「神はあらかじめ知っておられる者たちを、更に御子のかたち似たものとしようとして、あらかじめ定めて下さった。それは、御子を多くの兄弟の中で長子とならせるためであった」（ローマ 8:29）。まさにこの光景、すなわち死人の中からのキリストの復活が、型においてユダヤ人によって祝われていた。穀物のはじめの穂が畑に実ると、それらは注意深く集められた。そして民がエルサレムに上るときには、これらが主に感謝の供え物として捧げられた。民は実った束を神の御前に揺り動かし、このお方を収穫の主として認めた。この儀式の後、麦に鎌が入られ、収穫がなされるのであった。

同様に、よみがえらされた人々も、キリストを自分の個人的な救い主として信じるすべての人の復活の誓約として、宇宙に提示されるのであった。キリストを死人の中からよみがえらせた同じ力がこのお方の教会をよみがえらせ、このお方の花嫁として、すべての支配、権威、また、この世ばかりでなくきたるべき世においても唱えられる、あらゆる名にまさって、教会にキリストをもって栄光を帰すのである。眠っている聖徒たちの勝利は、復活の朝に栄光に満ちたものとなる。サタンの勝利は終わり、一方キリストは栄光と誉れのうちに勝利なさる。命の与え主は、墓から出てきたすべての人に不死の冠を授けてくださる。

## キリストの昇天

救い主の地上における働きは終わった。このお方が天の家に帰る時が来ていた。「それから、イエスは〔弟子たち〕をベタニヤの近くまで連れて行き、手をあげて彼らを祝福された。祝福しておられるうちに、彼らを離れて、天にあげられた」（ルカ 24:50, 51）。

キリストがまだ弟子たちに祝福をしておられるうちに天に上られると、天使軍がこのお方を雲のように取り囲んだ。キリストはご自分と共にとりこの群衆を連れて行かれた。このお方は自ら、ご自分が死と墓の勝利者であられる証拠として、眠っている者の初穂を御父の許へ連れて行かれるのである。神の都の入り口で、数え切れないほどの天使たちがこのお方の来られるのを待っている。彼らが近くと、随行している天使たちは門にいる一団に勝利の音調で述べる—

「門よ、  
こうべをあげよ。とこしえの戸よ、あがれ。  
栄光の王がはいられる。  
栄光の王とはだれか」。待っていた御使たちがたずねる。  
「強く勇ましい主、  
戦いに勇ましい主である。  
門よ、こうべをあげよ。  
とこしえの戸よ、あがれ。  
栄光の王がはいられる」

ふたたび、待っていた御使たちがたずねる、「この栄光の王とはだれか」。そして随行している天使たちが、美しい調べのような調子で答える、「万軍の主、これこそ栄光の王である（詩篇 24:7-10）。そのとき神の都の門が広く開かれ、天使の群れがいっせいに入るのである。

神のみ座があって、そのまわりに約束のにじがかかっている。ケルビムとセラピムがいる。天使たちがこのお方を取り囲んでいるが、キリストは彼らを押しとどめられる。このお方は天父の前に出られる。主はご自分の勝利のしるしである人々―揺祭の束、すなわちラッパの鳴り響くときに墓から現われる大群集を代表する者としてキリストと共によみがえった人たち―を指さされる。主は天父に近づかれる。そして、もし悔い改めるひとりの罪人のために天で喜びがあり、御父が一人のために歌をもってこれを喜ばれるとすれば、この光景を想像してみなさい。キリストは御父にこう言われる。「父よ、すべてが終わりました。わが神よ、わたしはあなたのみこころをなしました。わたしはあがないのわざを完結しました。もしあなたの正義が満足させられましたならば、『あなたがわたしに賜った人々が、わたしのいる所に一緒にいるようにして下さい』（ヨハネ 17:24）。正義は満足させられたと宣告される神のみ声が聞こえる。サタンは征服された。「いつくしみと、まこととは共に会い、義と平和とは互に口づけし」た（詩篇 85:10）。天父はみ子をいだし、「神の御使たちはことごとく、彼を拜すべきである」とのみことばが発せられる（ヘブル 1:6）。

セレクトド・メッセージ 1 巻 301～307

# 神の驚くべき恵み

*God's Amazing Grace*



9月 「恵みの力」

## 見たもの、また聞いたもの

「わたしたちは、父が御子を世の救主としておつかわしになったのを見て、そのあかしをするのである」(ヨハネ第一 4:14)

キリストの証人として、ヨハネは論争やうんざりさせる口論をしなかった。彼は自分の知っていること、自分が見たり、聞いたりしたことを話した。彼はキリストと親しい交わりをし、キリストの教えを聞いて、キリストの立派な奇跡を目撃してきた。ヨハネほどにキリストのご品性の美しさを見ることができた人はほとんどいない。彼にとって暗黒は過ぎ去っていた。彼の上にもことの光が輝いていた。救い主のご生涯と死に関する彼のあかしは、明瞭で力のこもったものであった。救い主に対する愛が豊かにあふれる心から彼は話したので、だれも彼の言葉をとめることはできなかった。(患難から栄光へ下巻 259)

彼は次のように言うことができた。「初めからあったもの、わたしたちが聞いたもの、目で見たもの、よく見て手でさわったもの、すなわち、いのちの言について—このいのちが現れたので、この永遠のいのちをわたしたちは見て、そのあかしをし、かつ、あなたがたに告げ知らせるのである。この永遠のいのちは、父と共にいましたが、今やわたしたちに現れたものである—すなわち、わたしたちが見たもの、聞いたものを、あなたがたにも告げ知らせる。それは、あなたがたも、わたしたちの交わりにあずかるようになるためである。わたしたちの交わりとは、父ならびに御子イエス・キリストとの交わりのことである。」(ヨハネ第一 1:1-3)

このようにだれでも自分自身の経験を通して「神がまことであることを、確かに認め」ることができる(ヨハネ 3:33)。彼は、自分自身がキリストの力を見て、聞いて、感じたことへの証を担うことができる。彼は次のように証することができる。「わたしは助けを必要としていましたが、それをイエスのうちに見出しました。あらゆる欠乏は補われ、わたしの魂の飢えは満たされました。聖書はわたしにとってキリストの啓示です。このお方はわたしにとって神聖な救い主であられるので、わたしはイエスを信じます。わたしが聖書を信じるのは、それがわたしの魂にとって神の声であることがわかったからです」(教会への証 8巻 321)

わたしたちはどのようにして神のいつくしみと愛を自分自身で知るのであろうか。詩篇記者はわたしたちに—聞いて知るのも、読んで知るのも、信じて知るのでもなく—「主の恵みふかきことを味わい知れ」と述べている。他の人の言葉に頼るのではなく、あなた自身で味わいなさい。経験は、試すことによって引き出される知識である。経験的な宗教こそ、今必要とされているものである。「主の恵みふかきことを味わい知れ」。(教会への証 5巻 221)

## 従うための力

「あなたがたのうちに働きかけて、その願いを起させ、かつ実現に至らせるのは神であって、それは神のよしとされるところだからである。」(ピリピ 2:13)

キリストによって与えられる神の恵みは、キリスト者の希望の基礎であり、この恵みは、服従となって現われる。(各時代の犬争闘上巻 325)

キリストは思いやりのある、あわれみ深い贖い主であられる。このお方の支える力のうちに、男女は悪に抵抗するのに強くなる。罪を自覚させられた罪人が罪を見ると、それは彼にとってはなほだ罪深いものとなる。……彼は自分のあやまちに打ち勝たなければならず、食欲と情欲は神の御意志に服従しなければならぬことを知る。……神の律法の違反を悔い改めて、彼は罪に打ち勝つために真剣に苦闘する。彼はキリストの恵みの力を表わそうと努め、救い主との個人的なふれあいへと連れてこられる。彼は絶えず自分の前にキリストを置き続け、祈り、信じ、自分が必要とする祝福を受けつつ、自分のための神の標準にますます近くなる。

彼が自己を否定し、十字架を掲げて、キリストが導かれる道に従うとき、新しい徳が彼の品性のうちに現われる。彼は真心から主イエスを愛し、イエスは彼の知恵、彼の義、彼の聖化、彼の贖いとなられる。……

奇跡を行うキリストの恵みの力は、人のうちに新しい心、よりきよい生活、もっと聖なる熱心さを創造することに現わされる。神は「わたしは新しい心をあなたがたに与え」と、言われる(エゼキエル 36:26)。人の再生こそ、行うことのできる最高の奇跡ではないだろうか。信仰によって神の力をつかむ人間の代理人に何かできないことがあるか。(教会への証 9巻 151,152)

人間の努力は、神の力がなければなんの役にも立たない。そして人間が努力をしなければ、神の力も多くの者にとってなんの役にも立たないのである。神の恵みをわれわれのものにするためには、われわれのなすべき分を果たさなければならない。神の恵みはわれわれのうちに働いて、願いを起こさせ、実現に至らせるのであるが、われわれの努力の代わりに与えられることは決してないのである。……服従の道を歩む者は、多くの困難に出会うのである。強く陰險な勢力が、彼らを世に結びつけることであろう。しかし主は、彼の選民たちを敗北させようとするあらゆる努力を無に帰すことができである。彼らは主の力に頼ってすべての誘惑に打ち勝ち、すべての困難を征服することができるのである。(国と指導者下巻 98)

## サタンに抵抗する

「あなたがたの会った試練で、世の常でないものはない。神は真実である。あなたがたを耐えられないような試練に会わせることはないばかりか、試練と同時に、それに耐えられるように、のがれる道も備えて下さるのである。」(コリント第一 10:13)

人は、キリストが誘惑の荒野での敵との闘いの中で模範を示してくださったように、決意と忍耐をもって神の力をつかむであろうか。神は人の意志に反して彼をサタンの策略の力から助けることはおできにならない。人はどのような代価を払ってでも、自分の人間の力で、キリストの神聖な力の援助を受けて、抵抗し打ち勝つために働かなければならない。つまり、人はキリストが勝利されたように勝利しなければならぬのである。そしてそのとき、イエスの全能のみ名によって特権として得ることのできる勝利を通して、彼は神の相続人、イエス・キリストとの共同相続人になることができる。もしキリストだけですべての克服する働きをなしたならば、これはありえない。人は自分の分を果たさなければならぬ。彼はキリストが与えてくださる力と恵みを通して、人は自分自身が勝利者でなければならない。人は打ち勝つ働きにおいてキリストとの共労者でなければならない。(教会への証 4 巻 32, 33)

悪習慣にとらわれている者に、自力で努力する必要を気づかせなければならぬ。彼らを向上させるため、他の人が最大の努力を払い、神の恵みが豊かに注がれ、キリストがその心に訴え、天使が奉仕をしても、彼ら自身が自力で戦おうと覚せいしなければすべてがむだになる。……

キリストにたよる者は先天的、また後天的な習慣や癖にとらわれていてはならない。低級な性格にしばられず、いっさいの食欲、情欲を支配すべきである。わたしたちが有限な力で悪と戦うのを神は放置しておかれない。悪に対する先天的、後天的な傾向がどうであれ、神が与えようとしておられる力によって、わたしたちは勝利することができるのである。(ミストリー・オブ・ヒーリング 149.150)

どんなに激しい誘惑であっても、罪の言いわけにはならない。どんな圧力が魂に加えられたにしても、犯罪は、われわれ自身の行為なのである。この世と陰府のいかなる力も、人間に悪を強制することはできない。サタンは、われわれの弱点を攻撃するが、われわれは負ける必要はない。攻撃がどんなに激しく、不意に襲ってきても、神はわれわれに助けを備えられた。われわれは、神の力によって勝利することができるのである。(人類のあけぼの下巻 19, 20)

## わたしたちを勝利者とする

「これらのことをあなたがたに話したのは、わたしにあって平安を得るためである。あなたがたは、この世ではなやみがある。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている」。(ヨハネ 16:33)

キリストは衰えも、落胆もされなかった。キリストに従う者たちはこれと同じ持久力のある信仰をあらわすのである。彼らはキリストが生活されたように生活し、キリストが働かれたように働くのである。なぜなら彼らは、キリストを大いなる監督としてたよっているからである。

彼らは勇気、精力、不屈の精神を持たねばならない。不可能にみえることが彼らの道をさまたげても、キリストの恩恵によって彼らは前進するのである。困難を嘆かないで、それを乗り越えるように命じられている。どんなことにも失望することなく、どんなことにも望みを持つのである。キリストは、ご自分の比類のない愛という黄金の鎖で、彼らを神のみ座にむすびつけられた。すべての力のみなもとから発する宇宙の最高の力を彼らに与えることが神の御目的である。彼らは、悪に抵抗する力、この世も、死も、よみも征服することのできない力、キリストが勝利されたように彼らにも勝利させる力を与えられるのである。(各時代の希望 下巻 170,171)

聖書は、特に神の恵みを受けた善人たちの失敗を、忠実に記録している。実のところ、彼らの美德よりも、むしろ欠点のほうを詳しく書いてあるくらいである。……

神から恵みを受け、大いなる責任をゆだねられた人物も、今日のわれわれが、苦しみ、よろめき、しばしばあやまちを犯すのと同様に、時には誘惑に負け、罪を犯した。彼らの欠点と愚行とがはっきり書いてあるのは、われわれに対する励ましと警告のためである。もしも彼らが全然あやまちない者として記録されていたならば、われわれのように罪深い者は自分の失敗やあやまちに絶望してしまうかもしれない。しかし、われわれと同じように失望しつつも戦いぬぎ、われわれと同様の誘惑に負けたが、それでも神の恵みによって勇気づけられ、勝利したことを知るとき、われわれもまた、義を追い求めるように励まされるのである。彼らが、時には打ちひしがれながらも、ふたたび立ちなおって神の祝福にあずかったように、われわれもイエスの力によって勝利者となることができるのである。(人類のあけぼの上巻 269,270)

キリストの弟子たちの生涯は、キリストの生涯、すなわち途切れることのない勝利の連続であるべきである。この地上ではそのように見えなくても、大いなる来世では、そのように認められるのである。(教会への証 6 巻 307)

## 自己支配

「怒りをおそくする者は勇士にまさり、自分の心を治める者は城を攻め取る者にまさる。」(箴言 16:32)

クリスチャンの高潔について最大の証拠は自制心である。悪口のまっただ中にあっても動揺しない人は神の英雄の一人である。自分の心を治めるとは、自分を訓練し、悪に抵抗し、ことごと行為の一つ一つを神の尊い正義の原則によって規正することである。自分の心を治めることを学んだ者は、わたしたちが日々に当面する軽蔑や拒絶やわずらわしさに超越し、そうしたものによって自分の心を暗くさせられることがない。

神の恩恵によって支配されているきよめられた理性という尊厳な能力によって、人間の生活が支配されることが神のみこころである。自分の心を治める者は、この能力を所有する。(青年への使命 128, 129)

肉体は、心と魂とが、品性建設のために発達する最も重要な媒体である。それゆえに魂の敵は肉体の力を弱め、低下させるために、彼の誘惑を向けてくるのである。……身体は人間の高等な能力に従わせなければならない。情欲は意志に支配されるべきであって、意志自身は神の支配の下になければならない。……知能の力、肉体のスタミナ、寿命などは、不変の法則に依存している。これらの法則に従うことによって人間は、自分自身の勝利者、自分自身の性癖の勝利者、「もろもろの支配と、権威と、やみの世の主権者、また天上にいる悪の霊に対」して勝利者となることができる(エペソ 6:12)。……

ダニエルに宿った精神を、今日の青年たちも持つことができる。彼らは同じ能力の源から力を得て、同様に不利な環境においてさえ、同様の自制の力を持ち、その生活に同じ美德を現すことができる。放縦な生活を行う誘惑に取り囲まれ、特にあらゆる形の肉の満足が容易であり、また魅力的である大都会においても、彼らは、神の恵みによって、神をあがめるという目的を堅く保ち続けることができる。彼らは強い決意と不断の警戒によって、彼らの魂を襲うあらゆる誘惑に抵抗することができる。(国と指導者下巻 100, 101)

## 天使の援軍

「わたしはあなたがたに、へびやさそりを踏みつけ、敵のあらゆる力に打ち勝つ権威を授けた。」(ルカ 10:19)

墮落した人間は、合法的にサタンの捕虜である。キリストの使命は、彼をその大敵の力から救うことであつた。人は生来サタンの暗示にしたがう傾向があるので、キリスト、すなわち力強い征服者が彼の内に住み、彼の望みを導き、彼に力を与えてくださらない限り、恐ろしい敵に首尾よく抵抗することはできない。神だけがサタンの力を抑えることがおできになる。……神の民の力がキリストの内にあるとき、彼らはサタンに勝つことができることを、サタンは彼らよりもよく知っている。彼らがへりくだって力強い征服者に助けを求めて懇願するとき、真理においてもっとも弱い信者も、キリストに固く寄りすがることによりサタンと彼の軍勢をみな首尾よく追い払うことができる。……

サタンは、ただ一人の魂であつてもその前進を妨げるために、そしてできることなら彼をキリストの手から奪うために、自分の使の援軍を召集する。……しかし、もし危険の内にある者が辛抱強く、自分の無力さのままに自らをキリストの血の功績に委ねるなら、わたしたちの救い主は信仰の熱心な祈りを聞き、彼を救出するために力にすぐれた天使たちの援軍をお送りになる。サタンは力強い対抗者が主張することに耐えることはできない。なぜなら、彼はキリストの力と威光の前で恐れ、震えるからである。熱烈な祈りの響きに、サタンの全軍は震える。(教会への証 1 卷 341-346)

キリストの愛情に満ちた思いやり、このお方の恵み、その全能の力以外に、わたしたちが情け容赦のない敵と戦い、わたしたち自身の心の反対を征服することができるようにさせるものはない。わたしたちの力強さは何であろうか。主の喜びである。キリストの愛にわたしたちの心を満たしていただく。そうすれば、このお方がわたしたちのために持つておられる力をわたしたちは受ける準備ができる。……

キリストのようにになりたいとの目的をもってこのお方を眺めるなら、真理を求める者は神の律法の原則の完全さを知り、完全以外は何も満足しなくなる。……サタンが用いようとして強めてきた属性との闘いを戦わなければならない。……しかし、彼は争闘の中で彼に勝利を得させる救いの力は贖い主と共にあることを知っている。救い主は、彼が恵みと能率を嘆願しつづみ許へ来るとき、彼を力づけ、お助けになる。(ビュー・アンド・ハルド 1904 年 3 月 31 日)

## 思いを訓練するために

「あなたの手には勢いと力があります。あなたの手はすべてのものを大いならしめ、強くされます。」(歴代史上 29:12)

思いは善か悪のいずれかに占められる性質を持っている。もし、それが低い標準を取り入れるとすれば、それは概して通俗的な主題を取り扱うがままに放置されているからである。……人には思いの働きを整え、支配し、自分の思想の流れに方向を与える力がある。しかし、これはわたしたちが自分自身の力ですることができる以上に大きな努力を要する。もしわたしたちが正しい思想と瞑想にふさわしい主題を得たいなら、わたしたちは自分の思いを神に留めなければならない。

自分の思想と想像を制御することが義務であることに気づいている人はほとんどいない。訓練を受けていない思いが、有益な主題に固定するよう保つのは難しい。しかし、もし思想が適切に用いられないなら、宗教は魂の中で繁茂することができない。思いは、聖なる永遠の事柄によって占められなければならない。さもなければ、それは取るに足らない表面的な思想をいやくようになる。知力も道徳力も訓練されなければならない。そうすれば、それらは働かせることによって強められ、向上する。

このことを正しく理解するために、わたしたちが覚えておかなければならないのは、わたしたちの心は生来墮落しており、自分自身で正しい進路を追い求めることはできないということである。わたしたちが勝利を得ることができるのは、ただ神の恵みとわたしたちの側での最も熱心な努力が結びつくことによるのみである。……

心と同じく知性は、神の奉仕に捧げられなくてはならない。神はわたしたちに属するすべてのものを求めになる権利がある。……

快楽を求めること、軽薄さ、また精神的および道徳的な放縦は、世界中にその混乱させる感化力をあふれさせている。すべてのクリスチャンは、悪の潮を押し戻し、滅びへとなぎ倒す感化力からわたしたちの青年たちを救うために労しなければならない。わたしたちが流れに逆らって道を押し進むために、神がわたしたちを助けてくださるように。(ビュー・アソド・ハルド 1881年1月4日)

神の恵みと御霊の力なくして、神がわたしたちの前におかれた高い標準に、わたしたちは達することはできない。わたしたちが到達すべき品性の神聖な卓越さがある。そして天の基準に達するよう奮闘するとき、神聖な動機がわたしたちを強く促し、思いは調和が取れるようになり、魂の不安はキリストうちにある安らぎのなかで消え去る。(彼を知るために 85)

## わたしたちの力と安全

「主にあつて、その偉大な力によって、強くなりなさい。」(エペソ 6:10)

多くの者がキリストを見る代わりに自分を見るがゆえに靈的に弱い。……キリストは、わたしたちがどのような場合にも力と幸福を引き出すことのできる偉大な宝庫であられる。そうであれば、なぜ、わたしたちはこのお方の十分さを眺めずに目をそらして、自分たちの弱さを嘆き悲しむのであろうか。このお方は必要な時にはいつでもわたしたちを助ける用意ができておられることを、わたしたちは忘れるのであろうか。わたしたちは自分の無能を語ることによってこのお方を辱める。自分自身を見る代わりに、絶えずイエスを眺めていよう。日ごとにますますこのお方に似た者となり、ますますこのお方のことを語るできるようになり、ますます自らこのお方の親切と有用さを得て、わたしたちに提供されている祝福をうける準備をしよう。わたしたちがこのようにしてこのお方との交わりのうちに生きる時、わたしたちはこのお方の力のうちに成長して強くなり、自分の周りの人々への助けまた祝福となる。

キリストはわたしたちが強くなるためにあらゆる備えをしてくださった。このお方はご自分の聖霊をわたしたちに与えてくださったが、その働きはキリストがなさった約束をすべてわたしたちに思い出させることであり、それはわたしたちが許しの平安と喜びの実感を得るためである。もしわたしたちが自分の目を救い主にしっかりと留め続け、そのみ力を信頼し続けるなら、安全を実感して満たされる。なぜならキリストの義がわたしたちの義となるからである。……

誘惑が激しく攻め寄せるとき、それらは確かに来るのであるが、また不安と困惑があなたを取り囲むとき、失望落胆し、ほとんど絶望しそうになるとき、見なさい、ああ、あなたが信仰の目をもって最後に光を見たところを見なさい。そうすればあなたを取り囲む闇はこのお方の栄光の明るい輝きによって追い散らされる。あなたの魂の中で罪が支配権を取り、良心に重荷を負わせようともがくとき、不信仰が思いを曇らせるとき、救い主のところへ行きなさい。このお方の恵みは、罪を征服するのに十分である。このお方はわたしたちを許し、わたしたちを神にあつて喜ばせて下さる。(ビュー・アソッド・ワールド 1908年10月1日)

神はわたしたちの思いが広がることを願い、ご自分の恵みをわたしたちに与えることをお望みになる。……わたしたちは、キリストが御父と一つであられるように、このお方と一つであるべきである。そうすれば、御父はご自分の御子を受えられるようにわたしたちを受えられる。わたしたちはキリストが得られたのと同じ助けを得ることができ、どのような緊急事態にも力を得ることができる。なぜなら神はわたしたちの前方の守り、またしんがりとなってくださるからである。このお方はわたしたちを四方から囲まれる。(セレクトド・メッセージ 1巻 416)

## まったく十分である

「そこで、わたしの子よ。あなたはキリスト・イエスにある恵みによって、強くなりなさい。」(テモテ第二 2:1)

テモテへのパウロの言葉に含まれている教訓は、今日のわたしたちにとって最も重要な教訓である。彼はテモテに一彼自身の知恵で「強くなりなさい」と命じたであろうか。否、そうではなく「キリスト・イエスにある恵みによって」であった。キリストに従う者となりたい者は自分自身の能力に頼るのではなく、あるいは自分自身に信頼すべきでもない。彼は自分の宗教上の努力において小人となったり、責任を避けたり、神のみ事業において無能のままでありたいべきでない。…もしクリスチャンが自分の弱さ、無力を感じるなら、神に信頼をおくことにより、彼はあらゆる緊急事態にキリストの恵みが十分であることを見出す。

キリストの兵士は数多くの形態の誘惑に会い、それらに抵抗し、打ち勝たなければならない。闘争が激しければ激しいほど、魂の必要を満たす恵みの満たしも大きくなる。……真のクリスチャンは、厳しい闘争と苦しい経験をくりぬけることが何を意味するかを理解するようになる。しかし彼は自分の魂の敵に首尾よく立ち向かうために、着実にキリストの恵みにおいて成長する。……暗闇はときどき彼の魂を圧迫する。しかし真の光が輝き、義の太陽の明るい光線が薄暗がりを追いついて散らして、……彼はキリストの恵みによって、神の靈感を受けた使命者から聞いた事柄の忠実な証人となることができる。……このように他の人々に真理を伝えることによって、キリストのための働き人は、すべての者のためになされた豊かな備えについて、すなわち一つ一つの争闘、悲しみ、試練の時のために、キリストの恵みが十分であることについて、はっきりとした見解を得る。神秘的な贖いの計画を通して、恵みは十分に備えられてきたので、人間の代理人の不完全な働きが、わたしたちの仲保者イエスのみ名のうちに受け入れて頂くことができる。

人にはほとんど力がないので、彼の最善を尽くしてもほんの小さな働きしかできずることができない。……神は全能であられる。そして、わたしたちが神の助けを必要とし、まごころからそれを求める時点でいつでも、それが与えられる。神はあなたの最も大きな必要において、あなたの最も痛みを感じる悩みにおいて、ご自分の恵みはあなたに対して十分であるとのみ言葉を保証しておられる。キリストは、もしあなたがこのお方の恵みを自分のものとするなら、あなたにとっていと近き助けとなられる。(ビュー・アンド・ワールド 1896年6月16日)

## 今日の必要のために

「あなたの力はあなたの年(日)と共に続くであろう。」(申命記 33:25)

約束は、将来の危急時のために今日力を得るということではない。すなわち、予期される将来の困難が、わたしたちに訪れる前に、前もって備えがなされるというものではない。もしわたしたちが信仰によって歩むなら、わたしたちは自分たちの状況がそれを必要とするや否や、自分たちのために力と備えを期待することができる。わたしたちは見るものによってではなく信仰によって生きる。主のご計画は、わたしたちがまさに必要としているものをご自分に求めることである。明日の恵みは今日与えられない。人間の必要は神の好機である。……神の恵みは浪費するために、乱用されるために、正道からはずれさせるために、また用いないでさびるままにしておくために与えられることは決してない。……

あなたが、神への愛と恐れのうち日々責任を負いながら、従順な子供としてことごとくへりくだった思いのうちに歩んでいるあいだは、すべての苦しい状況に見合う神からの力と知恵が与えられる。……

わたしたちは日ごとにわたしたちの力の源であるお方のそば近くにい続けるべきである。そうすれば敵が洪水のように襲ってくる時、主の御霊は敵に対してわたしたちのために旗をかかげて下さる。力はわたしたちの日に応じて与えられるという神のみ約束は確かである。わたしたちは現在の必要のために与えられている力があれば、将来のための確信を持つことができる。……将来のための心配を借りてきてはならない。わたしたちに必要なのは今日である。(わたしたちの高い召し 125)

多くの人が将来の困難を予期して打ちひしがれている。彼らは絶えず明日の重荷を今日に持ちこもうとしている。このように彼らの試練はみな大部分が想像である。イエスはこれらのために備えをしてはこられなかった。このお方が約束なさったのは、この日のためだけの恵みである。このお方はわたしたちが明日の心配や苦勞で自ら重荷を負うことがないように命じておられる。……

主はわたしたちに今日の義務を果たし、その試練に耐えるように要求なさる。わたしたちは今日、言葉と行動において罪を犯すことがないように見張らなくてはならない。今日、神をほめたたえ、あがめなければならない。生ける信仰を働かせることによって、今日、わたしたちは敵を征服すべきである。わたしたちは今日神を求め、このお方のご臨在なしに安んじることにはしないと決心しなければならない。わたしたちは、あたかも今日がわたしたちに与えられている最後の日であるかのように、見張り、働き、祈るべきである。そのとき、わたしたちの生活は、どれほど熱烈で真剣なものとなることであろう。わたしたちは自分たちのすべての言葉と行動すべてにおいて、どれほど厳密にイエスに従うことであろう。(教会への証 5 巻 200)

## 制限のない力を与える

「この神こそわたしの堅固な避け所（強さと力）であり、わたしの道を安全（完全）にされ」（サムエル記下 22:33）

すべての力の源である神に結合するなら、わたしたちのものとなるはずの力についての観念が、わたしたちにほとんどない。わたしたちは何度も何度も罪に陥り、いつもこんな調子にちがいないと思っている。わたしたちは自分の弱さに執着して、しかもそれが何か自慢すべきことででもあるかのように思っている。勝利しようと思えば、顔を火打石のようになければならないと、キリストは仰せになっている。キリストは、十字架の上でご自身の体にわたしたちの罪を負ってくださった。イエスがお与えになる力によって、わたしたちは世に対し、肉体に対し、悪魔に対して、抵抗することができるのである。だから自分の弱さや無能を口にしないで、キリストとその力について語ろう。サタン之力について語る時、敵はますますその力でわたしたちを固くしめつける。大能の神の力について語る時、敵は撃退される。わたしたちが神に近づくとき、神もまたわたしたちに近づいて下さる。……（青年への使命 97, 98）

永遠の神の御言はわたしたちの道案内である。わたしたちはこの御言を通して救いに至る知恵を得る。この御言は絶えずわたしたちの心と唇になくてはならない。「と書かれている」がわたしたちの錨であるべきである。神の御言を自分たちの助言者とする者は、聖化されていない汚れた一つ一つの衝動を従わせるには、人の心は弱いこと、また神の恵みには力があることを悟る。彼らの心は絶えざる祈りのうちにあり、彼らの保護者は聖天使である。敵が洪水のように押し寄せて来るとき、神の御霊は彼らのために敵に対して旗を掲げてくださる。心の中に調和がある。なぜなら、真理の尊く力強い感化力が支配するからである。（教会への証 6 卷 160,161）

わたしたちは自分たちの聖書にもっと親しまなければならない。もしわたしたちが聖句を暗記するなら、多くの誘惑に戸を閉ざすことができる。「と書かれている」というみ言葉でサタンの誘惑への道をふさごう。わたしたちは自分の信仰と勇気を試すような闘いに直面するが、イエスが与えたいと望んでおられる恵みを通して打ち勝つなら、それらはわたしたちを強くする。しかしわたしたちは信じなければならない。疑うことなくみ約束をつかまなければならない。（信仰によってわたしは生きる 8）

誘惑にあっている人には、周囲の事情、自己の弱さ、誘惑の力などに目をむけたりせず、神のみ言葉の力をながめるように教えなさい。その力はすべてわたしたちのものである。（ミストリー・オブ・ヒーリング 156）

## 愛し、愛されるクリスチャンを生む

「変らない真実をもって、わたしたちの主イエス・キリストを愛するすべての人々に、恵みがあるように。」(エペソ 6:24)

多くの者は、ある神学上の教義に同意しているからというだけのことで、自分は当然クリスチャンだと思っている。だが彼らは、真理を実生活に持ちこまなかった。彼らは真理を信じていなければ、愛してもいなかった。したがって彼らは、真理のきよめを通して与えられる力と恩恵とを受けなかった。人は、真理に対する信仰を告白しても、もしその信仰によって、彼らが真実で、親切で、忍耐強く、寛大で、天来の心を持った者となるのでなければ、それは所有者にとってわざわざであり、また彼らの感化によって、それは世にとってもわざわざとなる。(各時代の希望中巻 16)

世は偽りのないキリスト教の証拠を必要としている。キリスト教だと公言するものはどこにでも見られるかもしれない。しかし、神の恵みの力がわたしたちの教会の中に見られるときに、教会員はキリストのみわざをなすのである。生来の遺伝的な品性の特質が変えられる。このお方の御霊の内住は、彼らがキリストのみかたちを現すことを可能にし、また彼らの敬虔の純粋さに比例して、彼らの働きは成功する。(牧師への証 416)

わたしたちの信仰の告白を尊ぼうではないか。わたしたちの生活を品性の美しい特質で飾ろう。言葉や行動の手厳しきは、キリストではなくサタンからのものである。わたしたちは自分の不完全さや欠陥に執着することによって、キリストにわたしたちを恥させるのであろうか。このお方の恵みはわたしたちに約束されている。もしわたしたちがそれを受けると、それはわたしたちの生活を美しくする。……欠陥は、いつくしみ深さと完全さにとり替えられる。わたしたちの生活はキリストの生涯を非常に美しくした恵みで飾られる。……

真実な愛すべきクリスチャンは、聖書の真理のために有利に推し進めることのできる最も力強い論拠である。このような人こそ、キリストの代表者である。彼の生涯は、神の恵みの力について担うことのできるもっとも確信的な証拠である。(レビュー・アンド・ヘルド 1904年1月14日)

われわれには日ごとの生活において負わなければならない責任が与えられている。毎日われわれの言行は、交わる人々に印象を与えている。……キリストの真の弟子は接触するすべての人の、善を行おうとする精神を強める。神を信ぜず罪を愛する世界の前で、彼は神の恵みの力と神の品性の完全さをあらわすのである。(国と指導者上巻 312, 313)

## 道を指し示す

「あなたの神、主は、われわれの行くべき道と、なすべき事をお示しになるでしょう」。(エレミヤ42:3)

イエスのうるわしき、恵み、憐れみ、愛を思いめぐらすことによって、精神力と道徳力は強められる。そして、キリストのみわざをなし、従順な子であるために思いが訓練を受け続けている間、あなたは習慣的に、これは主の道であろうか、と問うようになる。イエスはわたしがこれをするをお喜びになるであろうか。……

多くの者は、もしイエスに喜んでいただきたいなら、自分の思考と行動の傾向において、決定的な変化をもたらす必要がある。わたしたちは、神がご覧になるほど、自分たちの罪を嘆かわしい光の中で見ることはめったにできない。多くの者が罪の道を追い求めることに慣れており、彼らの心はサタンの力の感化力の下に頑なになっている。……

しかし神の力強さと恵みのうちに、彼らが自分たちの思いをサタンの誘惑に抵抗するところへおくと、彼らの思いは明らかになり、神の御霊によって感化を受けることによって彼らの心と良心は敏感になり、罪はありのまま非常に罪深いもの一に見えてくる。(パウル・コムリ [E.G. 初作] 3 卷 1150)

キリストにしたがう従順な一つ一つの行為、キリストのために自己を犠牲にする一つ一つの行為、よく耐え抜いた一つ一つの試練、誘惑に対する一つ一つの勝利は、ことごとく、輝く最後の勝利へ前進する一歩である。わたしたちがキリストを導き手とするならば、キリストはわたしたちを安全に導かれる。どんな罪人も道に迷う必要はない。おののきながら求める者で、ひとりとして、純潔な清い光の中を歩むことができないものはない。その道が非常に細く、また罪が黙認されないほど清いものであっても、そこを歩くことはすべての人に保証されているのであって、どんな疑い深くおそれおののく魂も、「神はわたしを顧みてくださらない」と言う必要はない。……

永遠のいのちに導くこのけわしい道のほとりに、いたる所に、疲れた者を力づける喜びの泉がわき出ている。知恵の道歩く者は、困難の時にも大きな喜びがある。彼らの魂の愛する主が、目には見えないが彼らのそばを歩まれるからである。一歩高くのぼるごとに、いっそうはっきりとイエスのみ手が触れるのを感じる。一歩一歩、見えないおかたから来るいっそう輝かしい栄光のきらめきが彼らの道を照らすのである。そして彼らの賛美の歌は、いっそう調子を高めて天へのぼり、みくらの前の天使たちの歌とひとつになるのである。「正しい者の道は、夜明けの光のようだ、いよいよ輝きを増して真昼となる」(箴言4:18)。(祝福の山 174, 175)

## 信じる者のために

「このようなわけで、すべては信仰によるのである。それは恵みによるのであって」  
(ローマ 4:16)

罪人は、キリストの恵みがなければ希望のない状態であり、彼のためにできることは何もない。しかし神の恵みによって超自然の力が与えられる。……罪がその憎むべき性質のうちに識別され、ついには魂の宮から追い払われるのは、キリストの恵みが与えられることによる。わたしたちがキリストとの親しい交わりに入り、救いのみ働きにおいてこのお方と共に働くのは恵みによってである。信仰は、神が罪人に許しを約束するのにふさわしいと思われた条件である。信仰のうちに何か救いに価する徳があるからではなく、信仰がキリストの功績、すなわち罪のために備えられた治療法をつかむことができるからである。……

『アブラハムは神を信じた。それによって、彼は義と認められた』とある。いったい、働く人に対する報酬は、恩恵としてではなく、当然の支払いとして認められる。しかし、働きはなくても、不信心な者を義とするかたを信じる人は、その信仰が義と認められるのである」(ローマ 4:3-5)。義は律法への従順である。律法は義を要求し、罪人はこれを律法に負っている。しかし彼はこれを返すことができない。彼が義に到達することができる唯一の方法は、信仰を通してである。彼は信仰によってキリストの功績を神のところへ持っていくことができ、主は御子の従順を罪人の勘定に記載してくださる。キリストの義が人間の失敗の代わりに受け入れられる。そして、神は悔い改め、信じる魂を受け入れ、許し、義認し、彼をあたかも義人であるかのように扱われ、御子を愛されるように彼を愛してくださる。これが、どのように信仰が義とみなされるかということである。そして許された魂は恵みから恵みへ、光からもっと大きな光へと進んで行く。(セルゲイ・メセージ 1巻 366, 367)

信仰の一触は、わたしたちに力と知恵の神の宝の倉を開く。そしてこのようにして、土の器を通して、神はご自分の恵みの不思議を成就なさる。この生ける信仰は今日わたしたちに非常に必要である。わたしたちは、イエスが本当にわたしたちのものであること、このお方の御霊はわたしたちの心を純潔にし、精練しておられることを知らなければならぬ。もしキリストに従う者が柔和と愛を伴った本物の信仰を持っているなら、どのような働きを成就できることであろうか。神の栄光のためにどのような実が見られることであろうか。(今日のわたしの生涯 13)

## 約束にある力

「怠ることがなく、信仰と忍耐とをもって約束のものを受け継ぐ人々に見習う者となるように、と願ってやまない。」(ヘブル 6:12)

わたしたちは神の御言に密着していなければならない。わたしたちにはその警告と励まし、威嚇と約束が必要である。(教会への証 5 卷 198)

聖書は単に書かれたものとしてだけでなく、わたしたちに向かって語られた神のみ言葉として受けなければならない。病人がキリストのところに来たとき、キリストは、そのとき助けを求めた者だけをごらんになったのではなく、同じ要求同じ信仰をもってキリストに来る各時代の人々をもごらんになっている。中風の人に向かって「子よしっかりしなさい。あなたの罪は許されたのだ」(マタイ 9:2)と言われたときも、……他の病人や罪に悩む人々に向かって語られたのであった。神のみ言葉の約束はみなそうである。それらの約束を通して神はわたしたちひとりひとりに向かって語られ、また、直接にみ声を聞いているかのように語っておられる。これらの約束によってキリストは恵みと力をわたしたちにお与えになる。それば万国の民をいやす木の葉である。これを受け入れ、自分のものとするとき、品性の力となり、靈感が与えられ、生命を維持するものとなる。こういういやしの力を持ったものは他にない。(ニストリー・オブ・ヒーリング 92)

神はご自分の被造物を優しくかつ強い愛をもって愛される。このお方は自然の法則を制定なさったが、このお方の法則は独断的な強要ではない。すべてが「あなたはしてはならない」は、身体の法則であろうと道徳律であろうと、約束を含んでいるか、もしくはそれを示唆している。もしそれに従うなら、わたしたちの歩みに祝福が伴う。もし従わないなら結果は危険と不幸である。神の律法はこのお方の民をご自身に近く引き寄せるよう計画されている。神は彼らを悪から救い、もし彼らが導かれたいと思うなら、良いところへ導いてくださる。しかしこのお方は決して強制なさらない。(教会への証 5 卷 445)

わたしたちはあまりにも信仰がない。ああ、神を信じる信仰を持つように、わたしたちの民を導くことができると良いのだが。彼らは、信仰を働かせるために、極度の興奮状態にならなければならないと感じる必要はない。彼らのすべきことは神の御言を信じること、ちょうどお互いの言葉を信じるように信じることである。このお方はそう仰せになっており、ご自分の御言を実行なさる。静かにそのみ約束により頼みなさい。なぜならこのお方が仰せになることは、みなその通りだからである。「このお方はご自分の御言の中でわたしに話しかけておられるのであり、ご自分がなさったどの約束も成就なさる」と言いなさい。不安になつてはならない。信頼しなさい。神の御言は真実である。あなたの天父を信頼できるお方として行動しなさい。(セレクトド・メッセージ 1 卷 83, 84)

## 世の誇りによらず

「それは、あなたがたの信仰が人の知恵によらないで、神の力によるものとなるためであった。」(コリント第一 2:5)

イエスは、……誇りや外見的な見せびらかしをもってご自分のみわざをなさるのではなく、なさけ深い自己犠牲の生活によって人の心に語り、そのみわざを果されなければならなかった。……

キリストのしもべたちは世の光とならねばならないが、神は、光を輝かすように努力せよとは、命じておられない。神は、おのれのすぐれた善を誇示しようとするうぬぼれた努力をおよろこびにはならない。神は信者たちの心が、天の性質で満たされ、そのために、彼らが社会と接するとき心の中にある光が表われるようにと望んでおられる。生活のすべての行動にあらわれた不変の誠実さによって光は輝くのである。……どんなにりっぱであっても、世俗的なはなやかさは神の前に無価値である。神は目に見える一時的なものよりも、目にみえない永久的なものを尊ばれるのである。前者は後者を表現するときのみ価値がある。最高の芸術品の美しさも心の中に働く聖霊の実である品性の美には比べ物にならない。……

神の働きにおいて、人間の努力が有効となるかならぬかは、その働く人の清い信仰の程度いかんによる。すなわち生活を変化させるキリストの恵みの力をあらわすかどうかによるのである。わたしたちは世の人と異なっていなければならない。なぜならば神がご自分の印をわたしたちにおし、ご自身の愛の品性をわたしたちの身にあらわされるからである。救い主は彼の義をもってわたしたちをおおってくださるのである。……

神はその働きに人々をお選びになるとき、財産や、学識や雄弁等をおたずねにならない。ただ「わたしの方法を教えられる程謙遜に生活しているか。そのくちびるにわたしの言葉を語らせることができるか。彼らはわたしを代表するだろうか」とおたずねになる。神は、その霊を人の心の宮に多く入れることができればそれだけよくその人をお用いになることができる。神が承認される働きは、彼のみ姿を反映する働きである。彼に従う人々は社会に示す信認状として神の永遠に変らない原則的なご性質をもたねばならない。(ミストリー・オブ・ヒーリング 17, 18)

イエスは地上の誇りが無価値であることを知っておられたので、その見せびらかしに何の注意も払われなかった。その魂の気高さ、そのご品性の崇高さ、その原則の高潔さにおいて、このお方は世のむなしい流行をはるかに超越しておられた。(エレキッド・メッセージ 1巻 259, 260)

## 増え満ちる祝福

「神とわたしたちの主イエスとを知ることによって、恵みと平安とが、あなたがたに豊かに加わるように。いのちと信心とにかかわるすべてのことは、主イエスの神聖な力によって、わたしたちに与えられている。それは、ご自身の栄光と徳とによって、わたしたちを召されたかたを知る知識によるのである。」(ペテロ第二 1:2, 3)

ペテロの第二の手紙の第一章に、もし、「あなたがたの信仰に徳を加え、徳に知識を、知識に節制を、節制に忍耐を、忍耐に信心を、信心に兄弟愛を、兄弟愛に愛を加え」るならば、恵みと平安が増し加わるという約束を見出す(ペテロ第二 1:5-7)。これらの徳は、すばらしい宝である。……

わたしたちは、この人生に残されているわずかの時間に、恵みに恵みを、力に力を加え、わたしたちが上なる天に力の源を持っていることを明らかにしながら、自分の能力を最高まで用いるよう奮闘しないのであろうか。キリストは「わたしは、天においても地においても、いっさいの権威を授けられた」と、仰せになる(マタイ 28:18)。このお方に与えられたこの力は何のためであろうか。わたしたちのためである。このお方は、ご自分がわたしたちの長兄として天にお戻りになったこと、ご自分に与えられた測り知れない力はわたしたちの思いのままになるところに備えられていることを、わたしたちが悟るように望んでおられる。……

わたしたちは自分が語り行うすべてのことに、キリストを表わすべきである。わたしたちはこのお方の生涯を生きるべきである。このお方が導かれていた原則が、わたしたちと交わる人々に対するわたしたちの行動指針を形成すべきである。わたしたちがキリストのうちにしっかりと錨を下ろすとき、だれも取り去ることのできない力を、わたしたちは持つ。(教会への証 9巻 186, 187)

きよい生活の、気取らない無意識の感化は、キリスト教のために与えることのできる最も説得力のある説教である。議論は、たとえそれが相手に反論の余地を与えないものであっても、なお反対しか引き起こさないことがある。しかし敬虔な模範は、完全には抵抗できない力を持っている。(患難から栄光へ下巻 209)

ご自分の御子を通して、神は人が到達することのできる卓越さを表された。そして、世の前に、神はキリストの恵みを通して人がどのようなものになることができるかという生きた証人としてわたしたちを成長させておられる。……

このお方は、御父がご自分の領域で聖であられるように、わたしたちが自分たちの領域で聖となるように促すことにより、なんという誉れをわたしたちに授けて下さっていることであろう。そして、このお方の力を通して、わたしたちはこれをなすことができるのである。なぜなら、このお方は「わたしは、天においても地においても、いっさいの権威を授けられた」と宣言しておられるからである(マタイ 28:18)。この制限されていない力を自分のものだと主張することがあなたの特権であり、わたしの特権である。(わたしたちの高い召し 108)

## 若者はそれが必要である

「主なる神よ、あなたはわたしの若い時からのわたしの望み、わたしの頼みです。」  
(詩篇 71:5)

わたしたちの信仰を知らないわけではないが、自分の心に神の恵みの力が触れたことのない多くの青年男女がわたしたちの中にいる。神の僕であると主張するわたしたちは、どうして彼らの状態に無関心なまま毎日毎日、毎週毎週やりすごすことができようか。もし彼らが警告を受けなくて彼らの罪のうちに死ななければならぬなら、彼らの血は彼らに警告を与えなかった見張り人の手に求められる。

わたしたちは、自分たちの教会の中にいる青年たちを、最高の種類の伝道の働きとみなして、労すべきではないだろうか。それにはもっとも繊細な機転、最も用心深い考慮、天来の知恵を求める最も熱心な祈りを要する。青年はサタンの特別な攻撃目標である。しかしイエスに対する愛に満たされた心から流れ出る親切、礼儀、同情は彼らの信頼を得、敵の多くの罠から彼らを救う。

青年は表面的な注目以上のもの、時おりの励ましという言葉以上のものが必要である。彼らは骨の折れる、祈りに満ちた、注意深い働きを必要とする。……わたしたちが外観から判断して、無関心にそばを通り過ぎてしまう人々には、しばしば働き人として最高の資質があり、彼らに払われたあらゆる努力は報いられるのである。(福音宣伝者 207, 208)

セブンスデー・アドベンチストである親は、品性建設者としての自分たちの責任にもっと十分自覚すべきである。神は彼らの前に、彼らの子供たちの献身と働きを通して神のみ事業を強化する特権を置いておられる。このお方は、彼らの家庭の信心深い感化力のゆえに自分たちの心を神に明け渡し、自分たちの生涯の最高の奉仕をこのお方に捧げるために出て行く青年の大きな群れが、わたしたちの民の家庭から集められるのを見たいと願っておられる。家庭の信心深い教育と、朝夕の礼拝の感化力と、神を愛しおそれる親の一貫した模範によって指導され、訓練されて、彼らは自分たちの教師として神にひれ伏すことを学んでおり、王家のむすこ娘としてこのお方に受け入れられる奉仕を捧げる準備ができています。そのような青年は世にキリストの力と恵みを表わす準備ができていますのである。(両親・教師・生徒たちへの勧告 131)

## へりくだる者のために

「だから、あなたがたは、神の力強い御手の下に、自らを低くしなさい。時が来れば神はあなたがたを高くして下さるであろう。」(ペテロ第一 5:6)

謙遜であるということは、何も知力に欠け、抱負もなく、おく病な気持ちで人生を送り、失敗することを恐れて責任を避けることではない。真の謙遜は、神の力に頼って神の目的を成就することである。

神はみこころにかなう人びとを用いてお働きになる。神は大きな働きをするのに、最もいやしい器をお選びになる。それは、神の力が人間の弱さによってあらわされるためである。わたしたちは、標準をもって、それによって、一つの事を偉大であるといい、他のものを小さいと言うのである。しかし、神は、人間の定規でおはかりにならない。人間が大きいと思うことを、神も大きく思い、人間が小さいと思うことを、神も小さく思われるものと決めてはならない。(キリストの実物教訓 340)

自分の功績を誇ることは、すべて見当違いである。……報酬は、働きによるものではなくて、全く恵みによるものである。それはだれも誇る者がいないためである。……

自己に王座を占めさせることの中に、宗教はない。自分に栄光を帰すことを目当てにするものは、キリストのために力ある働きを行なわせる唯一のものである。神の恵みに欠乏していることを見いだすことであろう。高慢と自己満足にふけると、必ず、働きはそこなわれるのである……

その私生活においてクリスチャンである者、日ごとに自己を明け渡すことにおいて、心の真実さと純潔において、ののしられても柔和なことにおいて、信仰と敬けんにおいて、小さいことに忠実なことにおいて、家庭生活において、キリストの品性を代表する者、このような人は、世界的に名高い宣教師や殉教者以上に、神の前には尊いのである。……

学識があるとか、地位があるとか、または、人の数とか、才能の数とか、人間の意志の力とかに、成功の秘訣があるのではない。わたしたちは、自分の無力を感じて、キリストをめい想すべきである。そうするならば、すべての力の力であり、すべての思いの思いであるキリストの助けによって、喜んで従っていく人びとは、勝利から勝利へと進むのである。……単純な信仰と愛とをもって神のために働いた者のうける恵みの報酬は、実に祝福されたものである。(同上 379-383)

## わたしたちがすぐれた者となるために

「正しい人は悪を離れ去る（隣人よりもすぐれている）、しかし悪しき者は自ら道に迷う（彼らを誘惑する）。」（箴言 12:26）

主は、ご自分の僕たちが生活と品性において他の者たちにぬぎんでいてることを期待しておられる。このお方はご自分に仕える人々が思いのままに用いることのできるあらゆる手段を備えてこられた。クリスチャンは全宇宙から、賞、すなわち不死の冠を得ることができるよう自分たちの前におかれている行程を走り、競技をしている者として見られている。しかし、もしキリストに従うと公言している者が、すべてのものを勝ち得るか、すべてのものを失うかがかかっているこの大きな闘いにおいて、世の動機にまさる自分の動機を表さないのであれば、彼は決して勝利者になることはない。彼は聖霊の力を通して、豊かに備えられた恵みによって、世と肉と悪魔に打ち勝つことができるように委ねられたすべての力を用いなくてはならない。……

勝利者になりたい者は、救いの代価を瞑想し、数えるべきである。強い人間の感情は征服されなければならない。独立心は、キリストの虜にされなければならない。クリスチャンは自分が自分自身のものではないことを悟らなければならない。彼には抵抗すべき誘惑があり、自分自身の傾向に対して戦うべき闘いがある。なぜなら、主は中途半端な奉仕をお受けにならないからである。偽善は、このお方にとって忌むべきものである。キリストに従う者は信仰によって、見えないお方を見るようにして歩まなければならない。キリストは彼のもっとも大切な宝となり、彼のすべてのすべてとなられる。

この経験は、キリストのみ名を公言する人々にとって重要不可欠である。なぜなら、その感化力はふるまいに行き渡り、クリスチャン生涯の感化力を他の人々に及ぼすその効果において聖化するからである。彼らは事業のつながりやクリスチャンの交わりで、世の人々と共にあってキリストの恵みによって聖化されるようになる。そして彼らがいるところはどこでも、道徳的な雰囲気生まれ、善への力をもつのである。なぜなら、それは主人であるお方の精神を呼吸するからである。

キリストの思いをもつ人は、自分の唯一の安全な道が、命の光に従いながら、イエスのそば近くに続けることだということを知っている。彼はクリスチャン品性の完全さに到達することを妨げるような仕事を引き受けたり、事業に携わったりしない。……「兵役に服している者は、日常生活の事に煩わされてはいない。ただ、兵を募った司令官を喜ばせようと努める」（テモテ第二 2:4）。……（レビュー・アンド・ヘルド 1896年6月16日）

## 正しい感化力の源

「そうすれば、あなたの光が暁のようにあらわれ出て、あなたは、すみやかにいやされ、あなたの義はあなたの前に行き、主の栄光はあなたのしんがりとなる。」(イザヤ 58:8)

主は、わたしたち個人個人のために特別な働きを持っておられる。わたしたちは、世の人々の悪事が法廷の明るみに出され、毎日の新聞面をにぎわすのを見るたびに、ますます神に近づき、キリストの恩恵がわたしたちの内にあらわされるように、生きた信仰をもって神の約束にすがらなければならない。わたしたちは、世に感化力を、しかも強い感化力を与えることができる。……。高い地位にのぼろうとしたり、人々の賞賛をうけようとしてはならない。わたしたちの目標は、最も偉大な者となることであってはならない。わたしたちの目をただ神の栄光に向けていなければならない。神から与えられた知性のすべてをもって働き、自分自身を光の通路におかぬばならない。その時、神の恩恵はわたしたちの上にそそがれ、わたしたちの品性は神のみ像に似て陶冶(とうや)され、形づくられる。今日、世界歴史の終末時代に、神の働きに献身する人々の上に、天は豊かな祝福を与えようとして待っておられる。(青年への使命 12, 13)

わたしたちは自分のうちには、他人によい感化を及ぼすことができるものを持っていない。自分の無力と神の力の必要とを自覚するとき、わたしたちは自分自身にたよらないであろう。わたしたちは、一日、一時間、一瞬間がどんな結果を生じるかを知らないのであるから、天の父にわたしたちの道をまかせないで、一日を始めてはならない。天使たちは、わたしたちを保護するように、神の任命を受けているから、もし、わたしたちが、天使の守護のもとにあるならば、どんな危険なときにも、天使たちは、わたしたちの右にいるのである。わたしたちが、無意識のうちに、悪い感化を及ぼす危険がある場合、天使がわたしたちの側で、他のよい方法をとるように注意してくれて、言うべきことばを選び、わたしたちの行動を導いてくれる。こうして、わたしたちの感化は、無言で無意識のものであっても、他の人びとをキリストと天国に導く強い力となるのである。(キリストの実物教訓 317)

個人的な感化には力がある。それは、キリストの感化とともに働き、キリストが高められるものを高め、正しい原則を人々に伝え、世界の腐敗の進行をとどめるべきである。それは、キリストだけがお与えになることができる恵みを普及させなければならない。それは、熱心な信仰と愛を伴った純粋な模範の力によって、他の人々の生活と品性を高め、美化しなければならない。(国と指導者上巻 200)

## 生涯の競走のために

「こういうわけで、わたしたちは、このような多くの証人に雲のように囲まれているのであるから、いっさいの重荷と、からみつく罪とをかなぐり捨てて、わたしたちの参加すべき競走を、耐え忍んで走りぬこうではないか。信仰の導き手であり、またその完成者であるイエスを仰ぎ見つつ、走ろうではないか。」(ヘブル 12:1, 2)

ねたみ、悪意、邪推、悪口、貪欲などは、クリスチャンが永遠の命をめざす競走に勝利するために、捨て去らなければならない重荷である。われわれを罪におとし入れ、キリストのみ栄えを汚すような習慣や行為は、みな、どんな犠牲を払ってでも捨て去らなければならない。天の祝福は、正義の永遠の原則を犯している人に与えられることはない。……

古代の競技の選手たちは、克己と厳しい訓練に服したからといって、必ず勝利を得るのではなかった。……。競走者たちが、どんなに熱心に真剣に努力しても、賞は、ただひとりにしか与えられなかった。待望の栄冠を手にするのは、ただひとりだけであった。賞を得ようとして全力をつくし、まさにそれを手にしようとした瞬間に、他の者が彼らの前に現れて、熱望する宝物をさらってしまうこともあった。

ところが、クリスチャンの戦いは、そのようなものではない。条件に従った者は、競走の終わりにおいて、だれひとりとして失望におちいることはない。真剣に耐え忍ぶ者は、ひとりとして失敗することはない。それは、いちばん速い者のための競走ではなく、いちばん強い者のための競争でもない。最も強い聖徒とともに最も弱い聖徒も、永遠の栄光の冠を受けるのである。すべて、神の恵みの力によって、自分たちの生活をキリストのみこころに一致させる者は、勝利するのである。……すべての行動は、人生の勝利か、または、敗北を決定する重みを持っている。そして勝利者に与えられる報賞は、彼らが努力する気力と真剣さに比例している。……

パウロは、命のある限り、悪との戦いは終わらないことを知っていた。彼は、霊的熱心が世俗の欲望に負けることのないよう、常に自分をしっかりと守っておく必要を感じた。彼は全力をつくして、生来の傾向と戦い続けた。彼は、自分の到達すべき理想を常に目の前に置いた。そして、神の律法によるこんで従うことによってこの理想に到達しようとした。彼の言葉、彼の行為、彼の情熱は、みな、神の霊の支配下にあった。(患難から栄光へ上巻 336-339)

## 「このお方のみ力を語れ」

「彼らはみ国の栄光を語り、あなたのみ力を宣べ」(詩篇 145:11)

もしクリスチャンが共に交わって、互いに神の愛と尊い贖罪の真理について語り合うならば自分の心がうるおされ、お互いの心がうるおされるのである。わたしたちは日ごとに、天の父についてもっと学び、神の恵みを新たに受けるのである。そうすると、神の愛について語りたいと思うようになり、人に話せば自分の心があたためられ励まされるのである。もしわたしたちがもっとイエスのことを話し、より少なく自分のことを考えるならば、いつそうこのお方のご臨在を仰ぐことができる。

神がわたしたちのことを心にかけておられるという証拠があるのと同じくらい、いつも神のこののみを考えたいと思えば、いつも心に神を宿し、喜んで神について語り、神を賛美すべきである。わたしたちがこの世的なことを話すのは、それに興味をもっているからである。友のことを話すのは、その友を愛し、喜びも悲しみも共にしているからである。しかし、わたしたちは、この地上の友を愛するより以上に神を愛する大きな理由がある。であるから、わたしたちがなによりもまず神のことを思い、神のあわれみ深いこと、また、神のみ力について語ることは、世の中で最も自然なことではなければならない。」(キリストへの道 140, 141)

神のみ言葉を研究し、日ごとにキリストから教えを受ける人々は、天の原則の印を帯びる。高く聖なる感化力が彼らから出ていく。有益な雰囲気は彼らの魂を取り囲む。彼らが従う純潔で聖なる高尚な原則は、彼らが神聖な恵みの力について生きた証を担うことができるようにする。(天国で 311)

キリストはご自分に従う人々がご自分に似た者となることを望んでおられる。なぜなら、このお方は家族の輪において、教会において、世において正しく表されたいと願っておられるからである。……わたしたちは、世にキリストのご品性を表すことができるように、このお方を自分たちの能力、強さとして受け入れなければならない。これがクリスチャンとしてわたしたちに課されている働きである。わたしたちは天の恵みの力について証言しなければならない。……

神はご自分のむすこ娘たちが、サタンの会堂の前で、宇宙の前で、世の前で、ご自分の恵みの力を表すことを望んでおられる。こうして人々や御使たちが、キリストがむなしく死なれたのではないことを知ることができるためである。わたしたちは天からの力をもっていることを世に示そうではないか。(同上 321)

## 世界を揺るがす力

「真理の言葉と神の力とにより、左右に持っている義の武器により」(コリント第二 6:7)

弟子たちは、キリストから与えられた任務を果たした。十字架の使命者たちが出かけて行って福音を宣べ伝えたとき、かつて人間が見たことのないほど神の栄光があらわされた。聖霊の協力によって、使徒たちの働きは世界を動かした。わずか一世代のうちに福音はすべての国々に行き渡った。

キリストに選ばれた使徒たちの働きは、輝かしい成果を伴った。彼らが働きを始めたとき、ある者は無学であったが、主のみわざに全的に献身し、キリストの指導を受けて、ゆだねられた大きな働きのために準備したのである。恵みと真理は彼らの心を満たし、動機を与え、彼らの行動を支配した。彼らのいのちはキリストと共に神のうちに隠され、自己が姿を消し、無限の愛の深みに沈んだ。……神の知恵であり力であられるイエス・キリストが、あらゆる話の主題であった。……彼らがよみがえられた救い主、キリストの完全さを宣べ伝えると、彼らの言葉が人々の心を動かし、人々を福音へと導いた。救い主のみ名をのしり、その力を軽蔑していた多くの人々が今、十字架にかけられたかたの弟子であると告白した。

使徒たちが、ゆだねられた使命を成し遂げたのは、生ける神のみ力によるものであって、彼ら自身の力ではなかった。……自分たちの上に置かれている責任の意識が、彼らの経験をきよめ、豊かにした。そして彼らがキリストのために達成する勝利の中に、天の恵みがあらわされた。神はその全能の力をあらわし、福音を勝利させるために彼らを通して働かれた。(患難から栄光へ下巻 301-303)

キリストが弟子たちをつかわされたように、今日も、主はご自分の教会の信者たちをつかわされる。使徒たちに与えられていたのと同じ力が彼らのために与えられる。神を自分たちの力とするとき、神は彼らと共に働いて下さり、彼らの努力はむなしくなることはない。彼らが携わっている働きは、神が印を押されているものだというのを、彼らに認識させよう。……そして神は、われわれが、神の聖なるみ手がくちびるに触れたことを感じながら、与えられたみことばを語るために出て行くようにと命じておられる。(同上 307, 308)

## クリスチャンの記章

「どうか、わたしたちのうちに働く力によって、わたしたちが求めた思うところのいっさいを、はるかに越えてかなえて下さることができるかたに」(エペソ 3:20)

主は、ご自分の民を通してご自分の恵みと力を表そうと待っておられる。しかし、このお方はご自分の奉仕に携わる人々が自分の思いをいつもご自分に向け続けているように要求なさる。毎日、彼らは神のみ言葉を読み、祈るための時間をもつべきである。……

わたしたちは個人的に神と歩み、また語るべきである。そのとき、キリストの福音の神聖な感化力がことごとくその尊さのうちに、わたしたち自身のうちに現れるようになる。(教会への証 6 巻 253)

純粹な、真のクリスチャンの静かな、矛盾のない生活の中には言葉よりもさらに有力な雄弁がある。人物そのものがその話す言葉よりも、もっと力のあるものである。

イエスのところにつかわされた役人は今までこのように語った人はないという報告をもって帰ってきた。しかし、それはイエスのように生活をした人がなかったからである。そのような生活をキリストが送っておられなかったならば、あのよう語ることはできなかった。キリストの言葉は純潔で、きよく、愛と同情に満ち、徳行と真実にあふれた心から出たもので、人を信服させる力があつた。

他人に及ぼす影響を決定するのは自分の品性と体験である。キリストの恵みの力をほかの人に信じさせるためには自分の心と生活の中にあるその力を知っていなければならない。人を救うためにわたしたちが教える福音は自分の魂が救われた福音でなければならない。キリストを自分個人の救い主とし、生きた信仰を持つのでなければ、懐疑的な社会に感化を及ぼすことは不可能である。もし急流から罪びとを救い出そうと思えば自分の足をキリスト・イエスである岩の上に堅く立てていなければならない。

クリスチャンの徽章は表面につけるしるしではなく、十字架や冠をつけたりすることでもない。それは神と人間との結合を示すものである。変えられた品性の中に表わされている神の恵みの力を見て、社会は神がそのみ子をあがない主としてつかわされたことを納得させられるのである。人の心を取りまく影響の中で無私の生活の感化ほど力のあるものはない。福音に対して好感をいだかせる最も強いあかしは、愛し愛されるクリスチャンである。(ミニストリー・オブ・ヒーリング 453, 454)

## 抵抗することができない

「あなたを恐れる者のためにたくわえ、あなたに寄り頼む者のために人の子らの前に施されたあなたの恵みはいかに大なるものでしょう。」(詩篇 31:19)

主は、神の恵みを告白するようと、われわれに呼びかけておられる。……キリストの忠実さについてわれわれが告白することは、キリストを世にあらわすために天のえらばれた方法である。われわれは、昔の聖人たちを通して知らされた神の恩恵を告白すべきであるが、しかし最も効果があるのは、われわれ自身の経験によるあかしである。神の力の働きを自分自身のうちにあらわすとき、われわれは、神の証人である。各個人はそれぞれ他人とちがった人生を持っており、また本質的に他人とちがった経験を持っている。神は、われわれの賛美が、それぞれ特有の個性を帯びてみもとにのぼることをお望みになる。このようなとうとい告白によって神の恵みの栄光を賛美することは、それがクリスチャン生活によって裏づけられるとき、抵抗することのできない力をもって魂の救いのために働くのである。(各時代の希望中巻 75)

キリストを告白するために、わたしたちは告白するためのキリストを持たなければならない。自分のうちにキリストの思いと精神がなければ、だれも本当にキリストを告白することはできない。……わたしたちはキリストを告白するとはどういうことか、またどこで自分がこのお方を否定するかを理解しなければならない。……生活の中にあらわされた御霊の実は、このお方を告白することである。もしわたしたちがキリストのためにすべてを捨てたならば、わたしたちの生活はへりくだったものとなり、わたしたちの会話は天来のものとなり、わたしたちのふるまいは傷のないものとなる。魂における真理の力強く精錬する感化力と、生活の中で具現化されたキリストの品性こそ、このお方の告白である。(教会への証 1 巻 303, 304)

高潔さ、堅固さ、また辛抱強さは、すべての者が真剣に培うよう努めるべき資質である。なぜなら、それらは、その所有者を抵抗することのできない力—その人を善を行うにも、悪に抵抗するのにも、逆境に耐えるのにも強くする力—で覆うからである。……自らをあますことなくキリストの側におく人々は、理性と良心が自分に正しいと告げることによって、堅固に立つのである。(両親・教師・生徒たちへの勧告 226)

真の信徒の生活は、内に宿る救い主を表す。イエスに従う人は、精神と気質においてキリストのようである。キリストのように、彼は柔和でへりくだる者である。彼の信仰は愛によって働き、魂をきよめる。彼の全生涯は、キリストの恵みの力についての証である。(教会への証 7 巻 67)

## 不死を受け継ぐ者

「これは、わたしたちが、キリストの恵みによって義とされ、永遠のいのちを望むことによって、御国をつぐ者となるためである。」(テトス 3:7)

恵みと力を求める真剣な嘆願はすべて答えられる。……あなたが自分自身ではできないことをあなたのためにして下さるように、神に求めなさい。イエスにすべてを告げなさい。このお方の前にあなたの心の秘密をすべて打ち明けなさい。なぜなら、このお方の目は魂の最も奥深いものを探られ、あなたの思想を開かれた書物のように読まれるからである。あなたが自分の魂の善のために必要なものを求めたなら、それらを受けると信じなさい。そうすればそれらを受けるのである。このお方の賜物を全心に受けなさい。なぜなら、イエスはあなたが天の尊いものを自分自身のものとすることができるように死なれたからである。(今日のわたしの生涯 16)

青年は自分たちが不注意で気ままな生活を送り続け、神の王国のための準備をしようとしなのに、試練の時には真理のために堅固に立つことができると思ってはならない。彼らは救い主の生涯に見られた完全さを自分たちの生活のうちに持ちこむよう、真剣に努める必要がある。そうすれば、キリストが来られるときに、彼らは門を通して神の都へ入る準備ができる。心のうちにある神の豊かな愛とご臨在は、自制の力を与え、思いと品性をかたちづくり、形成する。生活におけるキリストの恵みは、目的と目標と能力を、道徳的かつ霊的な力—青年がこの世においていく必要がなく、かえって将来の生活のために携えていき、永遠にわたって持ち続けることのできる力—を与えるような水路へと向ける。(ユース・インストラクター 1907年11月12日)

全天は、神が贖うためにご自分の愛する御子を死に渡されるほど非常に高い価値をおかれた男女に関心を持っている。神が造られた被造物で、人間ほどの発達、精練、高尚が可能なものは他にない。そうであれば、人が自分自身の低俗な情欲によって鈍くなり、悪徳におぼれるとき、神はなんとという実例をご覧になることであろう。人は自分がどのような存在となり、どのような状態になれるかについて理解ができない。キリストの恵みを通して、人はたえず精神的な発達を遂げることができる。真理の光が彼の思いの中に輝き、神の愛が広く彼の心の中に降り注がれるようにしよう。そしてキリストが人に与えるために死なれた恵みを通して、力の人—地の子でありながら、不死を受け継ぐ者—となろうではないか。(天国で 195)

## 不屈

「主の祝福は人を富ませる、主はこれになんの悲しみをも加えない。」(箴言 10:22)

この苦悩のときに、ヤコブは天使を捕えて涙ながらに訴えたのである。すると、天使は、彼の信仰を試みるために、彼の罪を思い出させて、彼からのがれようとした。しかし、ヤコブは天使を行かせなかった。彼は、神があわれみ深いことを知っていたので、神のあわれみによりすがった。彼は、自分がすでに罪を悔い改めたことをさし示して、切に救いを願い求めた。ヤコブは、その生涯をふりかえってみると絶望するばかりであった。しかし彼は、天使を捕えてはならず、苦悩の叫びをあげて真剣に願い求め、ついに聞かれたのである。

神の民も、悪の勢力との最後の戦いにおいて、これと同じ経験をするのである。神は、神の救出力に対する彼らの信仰、忍耐、確信を試みられる。サタンは、彼らが絶望的である……と思わせ、彼らを恐怖に陥れようとする。彼らは、自分の欠点を十分知っていて、その生涯をふりかえってみれば、絶望である。しかし、彼らは、神の大きなあわれみと自分たちの真心からの悔い改めを思い出す。そして、無力な罪人が悔い改めるときにキリストによって与えられる神の約束を懇願する。彼らの祈りが直ちに聞かれなくても、彼らの信仰はくじけない。彼らは、ヤコブが天使を捕えたように、神の力をしっかり握って、「わたしを祝福してくださらないなら、あなたを去らせません」と心から言うのである(創世記 32:26)。……

ヤコブの生涯は、罪に陥っても真に悔い改めて神にたち帰る者を、神は見捨てられないことを証明している。ヤコブが、自分の力をふるって獲得できなかったものを得たのは、自己降伏と堅い信仰によってであった。こうして、神は、彼の熱望した祝福を与え得るものは神の能力と恵みだけであることを教えられた。最後の時代においてもこれと同様である。彼らは危険に当面し、絶望に陥るとき、ただ、贖罪の功績だけに頼らなければならない。われわれは自力では何もできない。全く無力で無価値なわれわれは、十字架につけられ復活された救い主の功績に頼らなければならない。そうするかぎり、だれひとり滅びることはない。(人類のあけぼの上巻 219-221)

## 「勝ち得て余りがある者」

「だが、キリストの愛からわたしたちを離れさせるのか。患難か、苦悩か、迫害か、飢えか、裸か、危難か、剣か。『わたしたちはあなたのために終日、死に定められており、ほふられる羊のように見られている』と書いてあるとおりである。しかし、わたしたちを愛して下さったかたによって、わたしたちは、これらすべての事において勝ち得て余りがある。」(ローマ 8:35-37)

神の僕たちは、世から誉れを受けることはなく、認められることもない。ステパノはキリストしかも十字架につけられたキリストを宣布したために石で打ち殺された。パウロは異邦人に対する神の忠実な使命者であったがゆえに、投獄され、打ちたたかれ、石で打たれ、ついには死に処せられた。使徒ヨハネは、「神の言とイエスのあかしとのゆえに」パトモス島に追放された(黙示録 1:9)。神聖な力の強さのうちにある人間の堅固さのこうした実例は、世に対する神のみ約束の忠実さと、このお方の永続的なご臨在と支えの恵みについての証人である。(福音宣伝者 18)

イエスはこの世の栄光や富をめざしたり、試練のない生活ができるような希望を、主に従う者たちにお与えになったのではない。それどころか、イエスは彼らに、ご自分に従って克己と非難の道を歩むよう求めておられる。世をあがなうために来られたイエスは、悪の連合軍に反対された。……

各時代にわたり、サタンは神の民を迫害してきた。彼は神の民を苦しめ、殺害してきたが、神の民は死ぬことで勝利者となった。彼らはサタンよりも偉大なかたの力をあかしした。悪人は肉体を苦しめ、殺すかもしれないが、キリストと共に神のうちに隠されているのちに触れることはできない。悪人は人々を獄屋に監禁することができても、彼らの心を縛ることはできない。

試練と迫害を通して神の栄光—神のご品性—が、その選民の中にあらわされる。世人に憎まれ迫害されるキリストの信者たちは、キリストの学校で教育され訓練される。地上にあっては、狭い道を歩き、苦難の炉で精錬される。彼らはきびしい戦いを通してキリストに従い、克己に耐え、苦い失望を経験する。しかし、このようにして彼らは罪の罪深さと苦悩を知り、嫌悪の思いをもって罪を見るようになる。キリストの苦難に共にあずかるとき、彼らは暗黒のかなたに栄光を仰ぎ、「わたしは思う。今のこの時の苦しみは、やがてわたしたちに現されようとする栄光に比べると、言うに足りない」と、言うことができるのである(ローマ 8:18)。(患難から栄光へ下巻 279-281)

## 「そのかたは、できる」

「わたしは自分の信じてきたかたを知っており、またそのかたは、わたしがゆだねたものを、かの日に至るまで守って下さることができると、確信しているからである。」(テモテ第二 1:12 英語訳)

使徒パウロは、不安と恐れを抱いてではなく、喜ばしい望みとあこがれの期待を持って、大いなるかなたをながめた。殉教の場に立っている彼には、執行人の刀も、間もなく自分の血を受けようとしている大地も目に入らない。彼は、……永遠の神のみ座を仰ぐ。

この信仰の人は、天と地をつなぎ、また有限な人間を無限の神につないで下さったキリストを表わす、ヤコブの幻のはしごを見上げる。自分を支え慰めて下さるおかた、そして、自分がいのちをささげようとしているそのおかたを、父祖たちや預言者たちがどんなに深く信頼していたかを思い起こして、彼の信仰は強められる。各時代にわたって信仰のあかしを立ててきたこれらの聖徒たちから、パウロは、神が真実であられるという保証を聞く。パウロの仲間の使徒たちは、キリストの福音を宣べ伝えに出て行き、宗教的偏狭さや異教の迷信、迫害、軽蔑に会ったが、不信心の暗い迷路の真ただ中に、十字架の光を高く掲げることができれば、自分たちのいのちは惜しいとは思わなかった。これらの人々が、イエスを神のみ子、世の救い主としてあかししているのを、パウロは聞く。拷問台や火あぶりの柱、土牢から、地のほら穴から、殉教者の勝利の叫びがパウロの耳に聞こえてくる。彼は、忠実な人々が、たとえ欠乏しても、悩まされ苦しめられても、なお恐れなく厳粛に信仰をあかし、「わたしは自分の信じてきたかたを知って」いると言うのを聞く。……キリストの犠牲によってあがなわれ、その血によって罪からきよめられ、その義を着せられて、パウロは、自分の魂はあがない主の御目に尊いものだというあかしを持っている。彼の生命はキリストと共に神のうちに隠され、彼は、死を征服されたかたはご自分にゆだねられたものを守ることがおできになると確信している。(患難から栄光へ下巻 209-211)

わたしは、わたしたちが信仰とへりくだりのうちに神のみ許へ行き、自分たちの魂がイエスとの緊密な交わりに入れられて、自分たちの重荷をこのお方の足もとへ置き、「わたしは自分の信じてきたかたを知っており、またそのかたは、わたしがゆだねたものを、かの日に至るまで守って下さることができると、確信しているからである」と言えるまでにこのお方に嘆願できることを、非常に喜んでいる。(医事伝道 203)

研究 5

最後の出来事



## キリストにある完全

—Perfection in Christ—

前回まで、神の民が通過する患難について学んできましたが、今回より、この患難を通過する前に必要とされている準備について、段階を追って学んでいきます。

第一回目は、「キリストにある完全」という主題をもって、聖書と預言の霊を通してわたしたちに与えられた光を研究したいと思います。

預言の霊は次のように語っています。

「わたしたちは主の満ちみちた徳を求め、わたしたちの前におかれた主のご品性の完全という目標をめざしてつねに前進しているだろうか。主の民がこの目標に到達する時、その額に印がおされる。聖霊に満たされて彼らはキリストにあって全き者となり、記録天使は『すべてが終った』と宣言する」(わたしたちの高い召し 150)。

上記の証を心にとめながら、わたしたちがこの状態に到達できるのか、もしできるとすればいつ、どのようにしてできるのか、またこれに伴う結果は何であるかということを研究し、聖霊がわたしたち一人ひとりの心にその事実を悟らせてくださるように祈りつつ、心から探求していきましょう。

### 1. 聖書と預言の霊は「完全」について何と言っているか？

「どうか、平和の神ご自身が、あなたがたを全きよめて下さるように。また、あなたがたの霊と心とからだを完全に守って、わたしたちの主イエス・キリストの来臨のときに(来臨のときまで：英語訳)、責められるところのない者にして下さるように」(テサロニケ第一 5:23)。

「おのが道を全くして、主のおきてに歩む者はさいわいです」(詩篇 119:1)。

「あなたがたも、かつては悪い行いをして神から離れ、心の中で神に敵対していた。しかし今では、御子はその肉のからだにより、その死をとおして、あなたがたを神と和解させ、あなたがたを聖なる、傷のない、責められるところのない者として、みまえに立たせて下さったのである。……それは、彼らがキリストにあって全き者として立つようになるためである」(コロサイ 1:21, 22, 28)。

「聖書の中に示されているきよめとは、人間全体、すなわち霊と魂とからだとにかかわるものである。」(清められた生涯 7)。

「キリストが魂を支配なさるときに、そこには、純潔と、罪からの自由がある。福音の計画の栄光と、その満ち満ちた完全さが生活の中に完成されるのである。救い主を受け入れることによって、完全な平和、完全な愛、完全な確証の喜びを味わうことができる」(キリストの実物教訓 395, 396)。

「真のきよめは完全な愛、完全な従順、神のみこころへの完全な一致を意味する」(患難から栄光へ下巻 268)。

「神はわれわれが完全な標準に到達するように求めておられ、キリストのご品性の模範をわれわれに示しておられる」(患難から栄光へ下巻 231)。

ですからわたしたちは、聖書と預言の霊を通して、完全とは、品性と言葉と行為の完全、すなわち「聖なる、傷のない、責められるところのない」人性をお取りになった主イエスのような者となることを意味するのだと理解することができます(コロサイ 1:22)。

## 2. なぜ完全でなければならないのか?

「仲保者イエスは、彼の血を信じる信仰によって勝利した者がみな、その罪を許され、再びエデンの家郷にもどって『以前の主権』を彼とともに継ぐ者となるように、嘆願されるのである(ミカ 4:8)。……イエスが、彼の恵みに浴する人々のために嘆願される一方において、サタンは、彼らを罪人として神の前に告訴する。大欺瞞者サタンは、彼らに疑惑を抱かせ、神に対する信頼を失わせ、神の愛から彼らを引き離し、神の律法を犯させようとしてきた。そして今度は、サタンは、彼らの生涯の記録を指摘し、品性の欠陥、贖い主のみ栄えを汚したところの、キリストに似ていない点、そして、彼が誘惑して彼らに犯させたすべての罪を指摘して、これらのことのゆえに彼らは自分の臣下であると主張するのである」(各時代

の大争闘下巻 216, 217)。

「今、われわれの大祭司がわれわれのために贖いをしておられる間に、われわれは、キリストにあって完全になることを求めなければならない。救い主は、その思いにおいてさえ、誘惑の力に屈服されなかった。……サタンは、神の子の中に、彼に勝利を得させるなんのすきも見つけることができなかった。神のみ子は、天父の戒めを守られた。そして、サタンが自分に有利に活用することのできる罪が、彼の中にはなかった。これが、悩みの時を耐えぬく人々のうちになければならない状態なのである。われわれが、キリストの贖罪の血を信じることによって、罪を捨て去らなければならないのは、現世においてである」(各時代の争闘下巻 397)。

「たった一つの欠点も、これを克服しないで温存しておく、それは人を不完全な者とし、聖なる都の門は彼に対して閉ざされる」(青年への使命 139)。

### 3. 完全、これは可能であろうか？

「それだから、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい」(マタイ 5:48)。

「そういうわけだから、わたしたちは、キリストの教の初歩をあとにして、完全を目標に進もうではないか。……もし、神が許されるなら、わたしたちはそうしよう」(ヘブル 6:1, 3 英語訳)〔マルコ 9:23; ペリピ 4:13 ご参照下さい〕。

「主は……言われた、『わたしは全能の神である。あなたはわたしの前に歩み、全き者であれ』」(創世記 17:1)。

「品性の完全は、そのために努力するすべての人が到達できるものである」(セレクテッド・メッセージ巻 212)

「わたしたちは勝利することができる。しかり、十分に完全な勝利者となる。イエスは、その死によってわたしたちのために逃れの道を開いて下さった。それは、わたしたちがすべての悪い気質、すべての罪、すべての誘惑に勝利して、ついにご自分と共に御座につかせるためなのである。」(教会への証 1 巻 144)。

「キリストはあなたがたが罪を犯さないようになるために、死なれたのである」(レビュー・アソッド・ヘアルド 1894 年 8 月 28 日)。

「一つの思いにおいてさえ、彼は試みに負けたまわなかった。われわれもそうなるのである。キリストの人性は神性と結合していた。イエスは聖霊の内住によって戦いに備えられた。しかもイエスはわれわれを神のご性質にあずかる者と

するためにおいでになったのである。われわれが信仰によってキリストにつながっているかぎり、罪はわれわれの上に権を取ることはできない。神はわれわれが品性の完全に到達できるように、われわれの中にある信仰の手を求め、それを導いてキリストの神性をしっかり把握させてくださるのである」(各時代の希望上巻135)。

「神がご自分の子らに望まれる理想は、人間の最高の思いが達することができるよりもっと高い。『それだから、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい』(マタイ5:48)。この命令は約束である。あがないの計画には、われわれをサタンの権力から完全にとり戻すことがもくろまれている。…クリスチャンの品性の理想は、キリストに似ることである。人の子キリストが、その生活において完全であられたようにキリストに従う者も、その生活において完全でなければならない。……キリストは、わたしを信ずることによって、神のご品性の栄光に到達しなさいとわれわれに命じられる。だからわれわれは、『天の父が完全であられるように』完全な者となるのである(マタイ5:48)」(各時代の希望中巻20, 21)。

「神がその領域で完全であられるように、われわれも、われわれの領域で完全でなければならない。」(人類のあけぼの下巻229)

「神のお与えになる命令や指図にはみな約束、しかも非常に積極的な約束が含まれていて、それがその命令の基礎となっている。神はわたしたちが神に似た者となることができるように備えをしてくださっている。そして神は、人が曲がった意志をさしはさんで神の恵みをむなしくしない限り、これをなしとげてくださる」(祝福の山94)。

#### 4. どのようにして完全になることができるか? (ヘブル12:1, 2)

この働きは、「あなたがたを守ってつまずかない者とし、また、その栄光のまえに傷なき者として、喜びのうちに立たせて下さるかた、すなわち、わたしたちの救主…イエス・キリストによって」(ユダ24, 25)のみ可能なのです。

「ある者は、『いったいどうすればこれが可能なのか。わたしたちは、原則を持たない腹黒い者たちにつけこまれるに違いない』と言う。弟子はその主人の御心を行なう者であることを覚えておきなさい。わたしたちは結果に関して論じてはならない。なぜなら、もしそうするなら、わたしたちはいつもせわしく、いつも不安定な状態になってしまう。わたしたちは自分の先入観に合っても合わなくても、

神のみ言葉の力と権威とを完全に認める立場を取らなくてはならない。わたしたちは完全な案内書をもっている。主はわたしたちに語ってこられた。そして、結果がどうなるうとも、わたしたちはそのみ言葉を受け入れて、それを毎日の生活に実行しなければならない。もしそうでなければ、わたしたちは自分自身の心と一致する義務だけを行なうようになり、わたしたちの天父がわたしたちに定められたことは正反対のことを行なうようになるからである」(医事伝道 255, 256)。

「キリストを信じる信仰を通して神のすべての戒めに従う者だけが、アダムが罪を犯す前にあった罪のない状態に到達するのである。彼らは主のあらゆるおきてに従うことによって自分たちの主に対する愛を証する」(パイブル・コメント[E・G・ホワイト] 六巻 1118)。

「キリストが示されている標準は、ご自分にあつて完全になることである。そして、主の功績によってわれわれはそれに到達することができる。われわれが到達できないのは、天のものを見上げるよりも、地上のものを見て満足するからである」(彼を知るために 117)。

「主は彼らのご自分の御名によって、クリスチャンの品性の完全に到達し、主が彼らのために勝利されたように、彼らも彼ら自身のために (own account) 勝利できるようにして下さったのである」(教会への証 3 巻 365)。

「しかもキリストは、これ(品性の完全)が達成される方法をわれわれにお示しになった。イエスはサタンとの戦いにどんな手段で勝利されたのだろうか。神のみ言葉によってである。み言葉によってのみ彼は試みに抵抗することがおできになった。『こう書かれている』とイエスは言われた。『尊く、大いなる約束が、わたしたちに与えられている。それは、あなたがたが、世にある欲のために滅びることを免れ、神の性質にあずかる者となるためである』(ペテロ第二 1:4)。神のみ言葉の中にある約束はどれもみなわれわれのものである。『神の口から出る一つ一つの言』によってわれわれは生きるのである(マタイ 4:4)。試みに攻撃された時には、周囲を見たり、自己の弱さを見たりしないで、み言葉の力を見なさい。その力はすべてあなたのものである」(各時代の希望上巻 135, 136)。

ですから、わたしたちが完全になれる秘訣は、ただ『主のみまえに立っている、ふたりの証人』(黙示録 11:3, 4) すなわち、「旧約と新約の聖書」にあるのであり(各時代の争闘上巻 341)、この聖書のみ言葉の完全な力によってのみ達成できるということです。「真理によって彼らを聖別して下さい。あなたの御言は真理であります」(ヨハネ 17:17)。「あなたがたの信仰を神のみ言葉によって具体化

させなさい」(福音伝道 362)。

「だれでも自分の活動範囲内で、クリスチャン品性の完成に失敗する必要はない。いのちと信心とにかかわるすべてのことを信者たちが受けられるように、キリストの犠牲によって準備がなされた。神はわれわれが完全な標準に到達するように求めておられ、キリストのご品性の模範をわれわれに示しておられる。救い主は、悪に抵抗した生活を貫き通して完全なものとしたご自身の人性によって、人間が神と協力すれば、この世において品性の完成に到達できることをお示しになった。これは、われわれも完全な勝利を得ることができるという神からの保証である。キリストのようになる、すなわち律法のあらゆる原則に従うというすばらしい可能性が、信者の前に提供されている。……クリスチャンの役割は、一つ一つの罪に辛抱強くうち勝つことである。…こうして寄せ算で働くとき、神は彼のために掛け算で働いて下さる」(患難から栄光へ下巻 231, 232)。

また、もう一つの方法として、他の人々のために奉仕するとき達成されるということが、次の証を通してわかります。「神はあなた自身のためにだけ気をつけて目を覚ますのがあなたの分だと仰せになったのではない。他の人々のためにも奉仕し、目を覚ますように求められている。そして、これを実行する時、あなた自身の品性の中に改めるべき悪があきらかにされ、また強められるべき弱点が強められるのである。これこそ、わたしたちのなすべき役割である。これは気短に、いらだって、いやいやながら行なうのではなく、クリスチャンの完全に到達するために、喜んで快活に果すべき働きなのである」(教会への証 2 巻 170)。

## 5. 完全と苦い杯

「なぜなら、万物の帰すべきかた、万物を造られたかたが、多くの子らを栄光に導くのに、彼らの救の君を、苦難をとおして全うされたのは、彼にふさわしいことであつたからである」(ヘブル 2:10)。

「彼は御子であられたにもかかわらず、さまざまの苦しみによって従順を学び、そして、全き者とされたので、彼に従順であるすべての人に対して、永遠の救の源となり」(ヘブル 5:8, 9)。

「あなたがたは、実に、そうするようにと召されたのである。キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、御足の跡を踏み従うようにと模範を残されたのである」(ペテロ第一 2:21)。

「あなたがたの知っているとおりの、信仰がためされることによって、忍耐が生

み出されるからである。だから、なんら欠点のない、完全な、でき上がった人となるように、その忍耐力を十分に働かせるがよい」(ヤコブ 1:3, 4)。

「こうして、あなたがたの信仰はためされて、火で精錬されても朽ちる外はない金よりもはるかに尊いことが明らかにされ、イエス・キリストの現れるとき、さんびと栄光とほまれとに変わるであろう」(ペテロ第一 1:7)。

「神は神の民を清め精錬するために、彼らに苦い杯を飲ませられることを、わたしに示された。それは苦い杯である。そして、不平不満つぶやきによって、それをさらに苦くすることができる。しかし、このようにしてそれを受ける人々は、もう一つの杯を飲まなければならない。なぜならば、最初のものが、心にその意図された効果をあらわさなかったからである。もし二度目の杯が効果をあらわさなければ、その効果があらわれるまで、彼らはまたその次も、そしてまたその次の杯も、飲まなければならない。さもなければ彼らは、その心が汚れたまま放置される。この苦い杯は、忍耐、辛抱強さ、祈りによって甘くすることができ、それをこうして受ける人々の心に、その意図された効果をあらわし、神に栄光と誉れとが帰せられることをわたしは見た。キリスト者となり、神のものとなり、神に嘉されるということは、生やさしいことではない」(初代文集 113)。

## 6. 品性の完成と至聖所

神の大いなる日のために一つの民を完全に備えさせる第三天使は天の至聖所を指さしています。

「第三天使は、『ここに、神の戒めを守り、イエスを信じる信仰を持ちつづける聖徒の忍耐がある』と言って、メッセージを終わっている。彼は、この言葉を繰り返したときに、天の聖所を指さした。このメッセージを信じるすべての者の心は、至聖所に向けられる。……わたしは、第三天使が、上の方を指さして、失望した人々に、天の聖所の至聖所への道を示しているのを見た。…第三天使は、彼らを至聖所に導いた」(初代文集 414-417)。

ですから、もしわたしたちが信仰をもって天の至聖所を見上げるなら、第三天使が求めているその経験を持つことができるということがわかります。では、天の至聖所では聖徒たちに完全な品性をもたらすどんな働きが行なわれているのでしょうか？

「地上の聖所の清めのために、祭司が、一年に一度至聖所にはいったように、イエスは、ダニエル書 8 章の 2300 日の終わり、すなわち、1844 年に、天の至

聖所にはいり、彼の仲保の働きによって恵みにあずかるすべての者のために最後の贖いをなし、こうして、聖所をお清めになるのであった」（初代文集 413）。

昔、地上の聖所を清めるために、すなわちイスラエルの最後の贖罪を行なうために一年に一度、大祭司は贖罪所に注ぐ血をたずさえて至聖所にはいり、そこで行なわれた務めによって、一年間の務めは完了しました（レビ記 16 章参照）。その時はイスラエルの人々にとってさばきの日でした。

「贖罪の業が進行している間、すべての者は、身を悩まさないかならなかつた。…イスラエルの全会衆は、厳粛に神の前にへりくだり、祈り、断食し、心を深く探って一日を過ごさなければならなかつた」（各時代の大争闘下巻 134）。

すべてその日に身を悩まさない者は、民のうちから「断たれる」のでした（レビ記 23:27～30）。この地上の聖所の儀式において、ただイスラエルの人々であれば清められたのではなく、この大いなる贖罪の日の要求に応じたすべての者が清められたということが次のみ言葉でわかります。

「……この日にあなたがたのため、あなたがたを清めるために、あがないがなされ、あなたがたは主の前に、もろもろの罪から清められるからである」（レビ記 16:30 英語訳）。

次のメッセージが今日、わたしたちにも聞こえてきます。「……神をおそれ、神に栄光を帰せよ。神のさばきの時がきたからである」（黙示録 14:7）。

このみ言葉は、大いなる大祭司キリストの立場と働きについてわたしたちがよく知る必要があることを教え、また大いなる贖罪の日の最後の働きが天の至聖所で行なわれている間、わたしたちが何をなすべきなのかその義務をはっきり理解するようにと求めています（各時代の大争闘下巻 222, 223 をご参照下さい）。

大いなる贖罪の日のためにイスラエル全国にラッパを吹きならしたように、現代のイスラエルにも次のようなラッパの声が聞こえています。

「シオンでラッパを吹きならせ。断食を聖別し、聖会を招集し、民を集め、会衆を聖別し、老人たちを集め、幼な子、乳のみ子を集め、花婿をその家から呼びだし、花嫁をそのへやから呼びだせ。主に仕える祭司たちは、廊と祭壇との間で泣いて言え、……」（ヨエル 2:15-17）。

上記のみ言葉について、主のしもべは次のように語りました。

「ある人々は強い信仰と苦悩の叫びをもって神に嘆願していた。彼らの顔は青ざめ、深い憂いの色を帯びていて、彼らの内的苦闘を表していた。その表情には、堅忍不拔の精神と非常な熱心さとがあらわれていた。彼らの額からは、大きな

汗のしずくが落ちた。…しかし、ある者はこの苦悩と嘆願の働きに加わっていないことをわたしは見た。彼らは無関心で不注意なように見えた。……神の天使たちは、これらの人々から離れ去った」(教会への証 1 巻 179-181)。

「身を悩まさない者は、民のうちから断たれるであろう」(レビ記 23:29)。

この大いなる贖罪の日にわたしたちは、悔い改めて「心を裂」(ヨエル書 2:13)く者の中にいるのでしょうか。そうでなければ、無関心で不注意な者の中にいるのでしょうか。キリストの真の弟子たちは、天の至聖所で行なわれているキリストの特別な働きを理解するとき、信仰によってイエスに従って至聖所に入ります。神は、ご自分の民が悔い改めてへりくだった心を持つように、『恵みと祈の霊とを注』がれるのです(ゼカリヤ 12:10)。預言の霊は神の民が信仰によって聖所に集められるときの彼らの砕かれた心の状態を次のように語りました。

「ヨシュアが天使の前で嘆願していたように、残りの教会も砕かれた心と熱心な信仰をもって、彼らの助け主イエスを通してゆるしと解放を嘆願する。彼らは自分たちの生涯の罪深さを完全に自覚している」(教会への証 5 巻 473)。

このようにして、神はご自分の民の中に隠れた罪がひとつも残らないように導かれるのです。

神の民が信仰によってさばきに臨むとき、彼らは自分自身の罪を自覚するようになります。昔の大いなる贖罪の日には「年ごとに…罪の思い出がよみがえって来」ました(ヘブル 10:3)。人々は聖所の入口に集まって悔い改めとへりくだった心をもってその年に犯した罪を思い出しました。このように今日も神の民が聖所に集められるとき、「罪の思い出」があります。「神の民が、神のみ前で身を悩まし、心が清められるように願い求めるとき、彼らから『汚れた衣を脱がせなさい』との命令が下され、『見よ、わたしはあなたの罪を取り除いた。あなたに祭服を着せよう』という励ましの言葉が語られる。試練に会い、誘惑されながらも忠誠を守った神の子供たちに、しみのないキリストの義の衣が着せられる。…サタンがしきりに訴えて、この群れを滅ぼそうとしている一方で、目に見えない聖天使たちは行きめぐって、生ける神の印を彼らに押していた」(教会への証 5 巻 475)。

ここで、わたしたちはさばきの目的が何であるかを理解することができます。すなわち、だれが永遠の命を受ける資格があるかを調べるためにキリスト者と公言する人々の生涯を調査するだけでなく、さばきの時キリストがご自分の民のために最後の贖罪をして彼らの罪を天の記録から除去するということです。キリストは彼らを永遠に救って下さり、彼らに「生ける神の印を押される」ということなの

です。もう一度次のみ言葉を読んでみましょう。

「この日にあなたがたのため、あなたがたを清めるために、あがないがなされ、あなたがたは主の前に、もろもろの罪から清められるからである」(レビ記 16:30)。

「真に悔い改めた者の罪が、ついに贖われて、天の記録から消されて、もはや思い出すことも心に浮かぶこともなくなる」(人類のあけぼの上巻 422)。

「儀式にたずさわる者たちは、一度きよめられた以上、もはや罪の自覚がなくなるのであるから……彼は一つのさざげ物によって、きよめられた者たちを永遠に全うされたのである」(ヘブル 10:2, 14)。

「彼らの罪は、前もってさばかれて、消し去られている。彼らは、罪を思い出すことができない」(各時代の大争闘下巻 393)。

ですから、天の至聖所におけるイエスのみ働きは特別なものであって、これこそまさしく、その仲保の恵みを受ける者に永遠で完全な品性を与える完全な恵みの働きなのです。神は、彼ら自身の罪を捨ててご自分の前で身を悩ます民を至聖所に招いておられます。そして、この人々のためにイエスは最後の贖罪のわざをなし、彼らの品性から罪に関する記録を消して彼らのための儀式を終え、彼らが完全なキリスト者になるようにと働いておられるのです。

## 7. 神の民にとって「完全」は当然なこと

「神の子供とは神のご性質をうけついでいる者である」(祝福の山 92)。

「イエスは、あなたがたの父が完全であられるようにあなたがたも完全な者となりなさいと仰せになった。もし神の子供であれば、あなたがたは神の性質をうけついでおり、従って神に似た者とならざるを得ない。子供はみな、父親の生命によって生きる。あなたがたは、神の子供であって、その聖霊によって生まれたのであれば、神の生命によって生きる」(同上 95)。

「真の清めとは、神のみこころに完全に一致することである。反逆的な思いや感情は克服され、イエスの御声は新しい命を目覚めさせ、それが全存在に浸透する。真に清められている人々は自分自身の意見を善悪の標準にはしない。彼らは頑迷な者でも、また自分の義を主張する者でもない。かえって、自分たちに与えられた約束の条件に達しないことを恐れて、いつも自分自身を見張っているのである」(清められた生涯 9)。

「『さて兄弟たちよ、わたしたちの主イエス・キリストの名によって、あなたがたに勧め。みな語ることを一つにし、お互いの間に紛争がないようにし、同じ心、同じ思いになって、堅く結び合っていてほしい』（コリント第一 1:10)。使徒パウロは彼らに不可能なことを訴えたのではない。一致とは、クリスチャンの完全の確かな結果である」（清められた生涯 85）。

## 8. 結論

「完全な人に目をそそぎ、直き人を見よ。このような人の終りには平安がある」（詩篇 37:37 英語訳）。

わたしたちは以上のような言葉を研究した結果、神の民にとって品性の完全は当然であるということがわかりました。しかし、このことについて次のように述べられています。「キリストは、品性を完成することがやさしいことであるとは、保証しておられない。高潔で円満な品性というものは、親から遺伝的にうけつぐものではない。また、偶然、ころがり込むものでもない。高潔な品性は、キリストの功績と恵みによって、人びとが努力することによって得られるものである。…わたしは、自分の品性の欠点を直すことはできない、などとだれも言うてはならない。そう思い込んでしまえば、決して永遠の生命を受けることはできない。不可能であるということは、自分の心の中で、そう思ってしまうからである。勝とうと思わなければ、勝つことはできない。心が清めを受けずに汚れていることと、神の支配に喜んで従わないことから本当に困難なことが生じるのである」（キリストの実物教訓 305, 306）。

「たといそれがどのような代価を払うことになっても、すべての点において打ち勝ち、すべての試練に耐え、勝利する者は、真の証人の勧告に注意を払ってきたのである。そして彼らは後の雨を受けるようになり、それによって昇天するのにふさわしい者とされるのである。」（教会への証 1 巻 187）。

品性の完全のために神の恵みの御座に近づいて嘆願し、努力するお一人お一人に、神の特別な恵みが与えられ、右記の証（教会への証 1 巻 187）が成就しますように、また皆様がこの主の大いなる祝福にあずかる者となられますように、切に願っております。

(54 ページの続き)

それから、テオドールに向かって言いました、「若者よ、これらの豆は、下までぜんぶこのような品質（ひんしつ）の豆なのかい？」

テオドールははじめ、なんと言ったらよいかわかりませんでした。彼はホーキンスさんが、そうです、と答えてほしいことはわかっていたのですが、彼の良心は、いいえ、と答えるべきことを命じました。彼は正直であろうと決心し、「いいえ、ご主人さま、同じではありません」と言いました。

「では、ほしくはないな」とお客さんは答えて、帰りました。テオドールはそれから事務所へ下りていきました。

「あの人に、これらの豆を売ったのかい？」とホーキンスさんはたずねました。

「いいえ、ご主人さま」とテオドールは答えました。

「なぜだい？」

「実は、ご主人さま、その人が、これらの豆はぜんぶ下まで同じ良質のものなのかと聞きましたので、わたしはそうではないと話したのです。そうしたら、彼はそれではいらぬと言いました」と、男の子は正直に答えました。

ホーキンスさんはおこって、テオドールをくびにしました。ある人は、それなら、その子はどうそを言った方が良かったのではないかと思うかもしれませんが。

しかし、長くたたないうちに、この同じホーキンスさんが、とても重要な仕事につかせるための男の子が必要になりました。彼は自分が完全（かんぜん）に信頼（しんらい）できる人がほしかったのですが、若いテオドールを思い出したのです。いまや彼は前よりもずっと高い賃金の仕事の申し出をしました。男の子はその仕事をひきうけて、その正直さのためにお金でむくわれました。また彼にはすんだ良心がありました。それは、もっとはるかに大きなむくいでした。真実を語ることは、大いにむくわれるのです！

## パイナップル・ジェラート

〔材料〕

パイナップル（カット・冷凍） 1つ

ココナッツミルク 1カップ

オリゴ糖 1/2カップ

〔作り方〕

材料をフードプロセッサーに入れて、なめらかになるまで、よく混ぜます。  
（混ぜりにくいようであれば、ココナッツミルクを足して下さい。）

お好みで甘さをぐっとひかえても、意外とおいしいさっぱりデザートです。  
桃やバナナなどほかの果物でもおいしくできますので、  
食べきれなかった果物を冷凍にしておくとう便利でしょう。

## 教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究 : 14:00-15:00

【公開放送】 <http://www.4angels.jp>



## 聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理

お申込先 : 〒 350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係  
是非お申し込み下さい。



## 書籍

【永遠の真理】 聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】 は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



## むくいられる正直

「偽（いつわ）りを言うくちびるは主に憎（にく）まれ、  
真実（しんじつ）を行う者は彼に喜（よろこ）ばれる。」（箴言 12:22）

**む**かし、おそれることなく真実を言うテオドールという名前の男の子がいました。テオドールは、ホーキンスさんという店の主人のために働いていました。あるとき、ホーキンスさんは、いたんだかんそう豆を何十キロも買ってきました。また彼は良い豆も何十キロか買ってきて、それからたるの底（そこ）にいくらか良い豆を入れ、たるのほとんどを悪い豆でいっぱいにし、最後にいくらか良い豆をいちばん上に入れました。こうすることによって、どちらがわを開けても良い豆が見えることとなります。豆をぜんぶたるに入れおわったとき、ホーキンスさんは、それらに「豆、A-1」としるしをつけました。テオドールは彼がこうするのを見たとき、「ご主人さま、これらの豆にこのようにしるしをつけるのは、正しいことだと思いますか」と言いました。「お前には関係ないことだよ」と、ホーキンスさんはらんぼうに、ふきげんに言いました。テオドールはそれ以上何も言いませんでした。

ある日、お客さんが店に入ってきて、豆をなんたるか買いたいと言いました。良い豆の見本がはこの中におかれていて、お客さんはそれを見て気に入りました。そこで、彼はホーキンスさんにたるの中の豆を見てもいいかとたずねました。「もちろんですよ」と店の主人は答えました。そこで彼はテオドールにお客さんを二階へつれて行き、たるを一つあけて見せるように言いました。彼らは上がって行き、たるを一つ開けました。お客さんは注意ぶかく豆を調べましたが、それらが見本とまったく同じようであることがわかりました。彼は、「上等の豆だね。ほかでは、こんな安い値段で、こんな豆を手に入れられないよ」と言いました。